

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	心理学	講義曜日	月	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	内山 彩香	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学等様々な領域の心理学について学び、人のこころの仕組みや行動との関連について体系的な知識を身に付けるとともに、人のこころについての客観的な視点を獲得する。				
	<b>到達目標</b>				
	学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学等様々な領域の心理学について学び、人のこころの仕組みや行動との関連について体系的な知識を身に付けるとともに、人のこころについての客観的な視点を獲得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	認知、推論
2	感覚・知覚・記憶	10	社会心理学① (集団と個人)
3	学習① 古典的条件づけ	11	社会心理学② (集団の行動)
4	学習② オペラント条件づけ	12	ストレス
5	気分・感情	13	心理アセスメント
6	パーソナリティー	14	心理療法
7	発達① 乳児期、幼児期の心理	15	試験
8	発達② エリクソンのライフサイクル論	16	

**講義方法**

授業では、資料を用いながら、援助者として踏まえておくべき心理学の基本的な知識について学習を行う。資料は各回で配布する予定である為、各自で保管を行うように努めること。

**成績評価方法**

学期末試験（80％）、授業評価（20％）によって成績を評価する。

**参考書**

「対人援助と心のケアに活かす心理学」有斐閣トゥディア

**予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法科/理学療法科	講義時間	2時限目		
科目名	倫理学	講義曜日	月	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	徳田 幸雄	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	「人間とは何か?」「生とは?」「死とは?」といった人間観や死生観の根本的な問いを軸に、人間の尊厳性を再考するとともに自身の人生観をも見つめ直す。				
	<b>到達目標</b>				
	さまざまな倫理思想に触れることにより、現代に求められる倫理観を養う。自分自身の考えを論理的に表現できるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	プラトンの思想(死の道)	9	仏教における人間観と死生観①
2	プラトンの思想(愛の道)	10	仏教における人間観と死生観②
3	ユダヤ教における人間観と死生観	11	神道における人間観と死生観
4	キリスト教における人間観と死生観①	12	近代人と死
5	キリスト教における人間観と死生観②	13	優生思想について
6	イスラームにおける人間観と死生観①(6信)	14	人工妊娠中絶問題
7	イスラームにおける人間観と死生観②(5行)	15	総括
8	インドの宗教における人間観と死生観	16	

**講義方法**

なるべく一方的にならないように、通常の講義に加え、チェック・テストを課す。マインド・マップを基本に、視聴覚資料を用いる。

**成績評価方法**

講義時におこなうチェックテストおよび期末テストにより評価する。

**教科書・参考書 教科書は特に指定しない。参考書を下記に示す**

小坂国継・岡部英男編著『倫理学概説』

**予習復習のアドバイス**

古代ギリシャの哲学者（プラトン・アリストテレス）の著書を、少なくとも一冊は読んでみるとよい。

身の回りに起こる出来事やニュースも、倫理あるいは哲学の観点から見直すことをすすめたい。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	教育学	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	牛渡 亮	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	本授業では、教育学と教育社会学の知見を通じて、人間にとっての教育の意義を考えます。さらに、私たちが暮らす地域社会において、教育が果たす役割を検討します。それによって、私たちは誰もが学習者であり、教育者であることを明らかにします。				
	<b>到達目標</b>				
本授業の到達目標は、なぜ自分が教育学を学ばなければならなかったのかを理解し、納得することです。そのためには、①教育の意義を理解すること、②現代社会に生じている教育的問題に関する自分の意見を他者に説明できるようになること、③専門職が地域社会で果たすべき役割を明確にすることが必要となります。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	教育とは何か (ガイダンス)	9	教育と階層 ①社会階層と再生産
2	素質と環境① 生得論と経験論	10	教育と階層 ②不良少年と階層
3	素質と環境② アフーマティブ・アクション	11	教育と貧困 ①絶対的貧困と相対的貧困
4	教育の場 ①家庭における教育	12	教育と貧困 ②現代の貧困と包摂
5	教育の場 ②学校における教育	13	専門職と教育 ①専門職の定義とその変容
6	教育の場 ③社会における教育	14	専門職と教育 ②チームとしての専門職
7	個性と平等 ①教育における平等	15	試験
8	個性と平等 ②青い目茶色い目	16	

**講義方法**

毎回配布する資料にもとづいて、板書中心の授業を行います。

**成績評価方法**

定期試験とコメントペーパーで評価します。

**教科書・参考書**

教科書は使用しませんが、授業内で参考書をご紹介します。

**予習復習のアドバイス**

授業の終わりに、毎回コメントペーパーを作成してもらいます。いただいた質問や意見に対しては、次の授業の冒頭で解説や補足を行います。積極的に質問を考えながら受講してください。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1学年
学 科	作業療法科	講義時間	1・2時限目		
科目名	社会福祉学	講義曜日	月・火	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	千脇隆志・高梨友也	実務経験	高齢者施設等に10年以上勤務 管理職、相談職等 社会福祉士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	科学的,倫理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培うことを目指し、生命倫理、人の尊厳を幅広く理解することができる。				
	<b>到達目標</b>				
	・学生が国民の保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	講義オリエンテーション (千脇) (10月10日1限)	9	福祉サービスの供給と利用の過程 (高梨) (11月20日1限)
2	現代における社会問題と社会構造 (千脇) (10月10日2限)	10	福祉政策と関連施策 (高梨) (11月20日2限)
3	社会福祉の全体像 (千脇) (10月24日1限)	11	福祉政策の国際比較 (高梨) (12月4日1限)
4	社会福祉を担う専門職 (千脇) (10月24日2限)	12	日本の社会福祉の歴史的展開 (高梨) (12月4日2限)
5	社会福祉の根源 (高梨) (10月30日1限)	13	欧米の社会福祉の歴史的展開 (千脇) (12月5日1限)
6	福祉政策の基本的な視点 (高梨) (10月30日2限)	14	講義 まとめ (千脇) (12月5日2限)
7	福祉政策の構成要素と過程 (高梨) (11月13日1限)	15	事例検討
8	福祉政策のニーズと資源 (高梨) (11月13日2限)	16	

**講義方法**

基本方法として、講義、演習。 必要時ディスカッション、小レポート iPad持参

**成績評価方法**

期末試験70%、小レポート20%。参加態度10%

**参考書**

社会福祉学習双書 社会福祉の原理と政策2023

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書の行う単元を読むように心がけてください。

講義中は、適宜ポイントを示します。試験のためには、講義中のポイントを整理しておいてください。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	情報管理学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	丸山千恵、上遠野純子、鈴木郁子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	パソコンを利用した、日常業務や研究等での情報整理の手法を修得する。パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。				
	到達目標				
	情報化社会の中で、パソコンを日常業務の道具として駆使できること。文書処理、表計算などの一般的な操作が理解できること。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	・ E x c e l 入門	9	・ 条件判定 I F 関数の使い方
2	・ E x c e l の画面構成	10	・ データベース データ集計
3	・ データ入力の基礎	11	医療専門職としての記録報告の仕方
4	基本的なワークシート編集	12	話し言葉と書き言葉の違い
5	・ ワークシートの書式設定	13	レポートの書き方と文献検索の仕方
6	・ グラフの作成・設定の変更	14	情報リテラシーについて
7	・ オートSUMボタンの活用	15	電子カルテについて
8	・ 関数の挿入		/

**講義方法**

PC操作は学生によりスキルの差があると思われるが、基礎から指導する。その日の授業内容をプロジェクターにて告知し、解りやすい授業とする。教科書や各種教材を活用し、収集した情報をだれが見てもわかりやすく整理する。 スキルを具体的な演習で身に付ける。

**成績評価方法**

演習・実習課題の期限までの提出、およびマシン実技確認テスト等で成績評価とする。成績評価には平常点として授業態度や出欠状況も加算し、総合的に評価する。

**教科書：参考書****予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法科/理学療法科	講義時間	変則		
科目名	工学	講義曜日	金	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	岩淵 正則	実務経験			
講義目標	一般目標				
	力学の基礎を通じて科学的・論理的思考力を身に付け、理論から実際の物作りへの応用力を養うことを目標とする。				
	到達目標				
	運動力学の基礎となる力学の基礎を学び、続いて制御の仕組みや機械の機構による運動の伝達部分の基礎を理解する。また、アクチュエータによって操作される運動系を理解し、現在の介護ロボットの仕組みについて理解することを到達目標とする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	物理量とその表し方	9	運動エネルギーと仕事
2	物理学で使うグラフと関数	10	電気工学の基礎
3	いろいろな運動	11	機械工学の基礎
4	さまざまな力	12	制御工学の基礎
5	力の合成と分解	13	情報工学の基礎
6	運動方程式(物体系)	14	福祉系ロボットの活用例
7	運動方程式(摩擦系)	15	期末試験
8	力のモーメント	16	

**講義方法**

板書中心で進めるが、随時演習問題や関連資料のプリントを配布する。

**成績評価方法**

定期試験と提出物、出席率で評価する。

**教科書・参考書**

PT・OTゼロからの物理学 羊土社

**予習復習のアドバイス**

高校の物理Ⅰが基礎となる。最初からの積み重ねが大事であるので、欠席のないようにお願いしたい。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	医学英語	講義曜日	火	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	室井由美子	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床現場で使用される医療に関する英語（英単語）、略語を理解して、カルテ等の資料を読み取り、対象者の情報を記すことができる。また、国家試験に頻出する疾患名、評価尺度名などにも早期に触れ、英語表記に慣れる。				
	<b>到達目標</b>				
	リハビリテーション現場でよくみられる疾患や状態、指示に関する単語をある程度理解できる、単語を交えて対象者の状態を表現できる、国家試験にどのような英語表記が存在するのか知っている				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	体の断面と方向 関節可動域	5	小試験、国家試験に出てくる英語表記 グループワーク
2	復習 主要関節と部位 骨格 脊柱	6	国家試験に出てくる英語表記 グループワーク
3	頻出略語	7	英語を母国語とする患者との会話 グループワーク
4	頻出略語 復習	8	英語を母国語とする患者との会話 グループワーク

<b>講義方法</b> 配布資料 パワーポイントでの授業 グループワーク
<b>成績評価方法</b> 出席授業参加 20% 小試験30% 期末試験50%
<b>参考書</b> リハビリテーションの基礎医学
<b>予習復習のアドバイス</b> 授業で強調した箇所は復習して覚える

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1学年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	スポーツ学	講義曜日	火	講義回数	15回
		総時間数	30時間	単位数	
講師名	齋藤 友規	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	スポーツを「する」「知る」「支える」をテーマに、スポーツのチカラについて理解を深め、身体活動の意義や役割について学び、健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を目指す。また、パラスポーツ体験やボランティア実習を通じて、将来の医療関係者として協力・支援ができる力を育むことを目的とする。				
	<b>到達目標</b>				
①スポーツの意義や役割について様々な視点から理解を深める。 ②豊かで健康的な学生生活や社会生活確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。 ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度や、協調性の育成を図る。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ガイダンス	9	体力・トレーニング・運動処方②
2	スポーツとの関わり方	10	スポーツと心理
3	パラスポーツ体験①	11	スポーツ実技②
4	スポーツと安全管理、事故・傷害の予防	12	スポーツと栄養
5	パラスポーツ体験②	13	スポーツ・インテリジェンス（情報戦略）
6	パラスポーツ実習 （宮城県・仙台市障害者スポーツ大会ボランティア）	14	スポーツ実技③
7	体力・トレーニング・運動処方①	15	まとめ
8	スポーツ実技①	16	

**講義方法**

講義の他、実技・実習も予定しています。講義内容を入れ替えることがあります。

**成績評価方法**

レポート試験（70%）、授業内課題・出席状況・授業態度等（30%）の総合的評価としま

**教科書**

必要な資料は適宜、授業内で使用します。

**予習復習のアドバイス**

興味を持ったことや、質問事項等はまとめておくこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1学年
学 科	作業療法科	講義時間	2時限目		
科目名	社会行動学	講義曜日	水	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	田代 志門	実務経験			
講義目標	一般目標				
	本授業では、社会学の視点から現代社会を生きる人々が直面する課題について学ぶことを通じて、医療専門職が本人の生活を支えるとはどのようなことかを理解する糸口とする。				
	到達目標				
	1) 一般的なライフコースに沿って現代社会の課題を理解する。 2) 学んだ社会的な知見を医療の実践と結びつけて考えることができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	イントロダクション 社会学とは	9	仕事と職業の社会学 (1)
2	社会調査とは (1)	10	仕事と職業の社会学 (2)
3	社会調査とは (2)	11	家族と結婚の社会学 (1)
4	出産の社会学 (1)	12	家族と結婚の社会学 (2)
5	出産の社会学 (2)	13	病いと老いの社会学 (1)
6	教育の社会学 (1)	14	病いと老いの社会学 (2)
7	教育の社会学 (2)	15	まとめと試験
8	中間まとめ	16	

**講義方法**

教科書に沿って講義を進め、適宜グループワーク等により理解を深める。  
対面での実施を予定しているが、状況によってはオンラインでの実施に変更することもある。

**講義で使用する機器・教材**

映像教材等を使用する場合がある。

**履修上の注意事項**

授業の予習復習を行い、指定された課題を提出すること。授業の詳細な進め方は初回に指示する。

**成績評価方法**

平常点および期末試験による。

**教科書**

筒井淳也・前田泰樹『社会学入門』(有斐閣、2017年)

**参考書**

三井さよ『はじめてのケア論』(有斐閣、2018年)

**予習復習のアドバイス**

基本的には教科書に沿って講義を進めるので、指定された箇所をよく読み、疑問点を明らかにしておくこと。

記載日 令和4年 9月 1日

## 講義要項(シラバス)

年度	2023年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	Basic Communication Training I (BCT I)	講義曜日	変則	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	淀川 裕美	実務経験	リハ専門病院3年, 介護施設2年, 訪問地域作業療法領域10年, 作業療法士として勤務		
到達目標	医療人として社会で働くために必要となるコンプライアンス, 身だしなみ, 健康管理, タスク管理, 感情管理, 連絡報告相談などについて知り, 日々の学校生活で意識的に実施できる.				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月25日	オリエンテーション OTを目指すあなたへ	11	/	
2	5月2日	コミュニケーションとは? コミュニケーションと学校ルール	12	/	
3	5月9日	コミュニケーションとは? コミュニケーションとシラバス	13	/	
4	5月16日	自律した自分になろう	14	/	
5	5月23日	自律した自分になろう	15	/	
6	5月30日	自分を理解しよう	16	/	
7	6月6日	自分を理解しよう	17	/	
8	/	まとめ	18	/	
9	/		19	/	
10	/		20	/	

**講義・実習方法**

主に座学とグループワークで実施する

資料は基本紙で配布します、データでお渡しする場合にはTeamsにて配布します

**講義で使用する機器・教材**

パワーポイント, PC, プロジェクター

**履修上の注意事項**

欠席した講義の資料は自分で教員まで取りに来る・友人にコピーさせてもらうなどして、必ず全ての資料をそろえるようにしてください。

コミュニケーションに対する「指摘」は「これからなる医療職としてのコミュニケーションに不足していること」であり、みなさんを否定するものではありません、これから身に付けていきましょう。

**成績評価方法**

課題60%, 試験40%で評定します

課題提出期限は厳守、理由なく遅れた場合は採点しません。遅れそう/遅れた場合には必ず相談下さい

**教科書**

PT・OTのための これ你放心 コミュニケーション実践ガイド 第2版/医学書院

**参考書**

適宜配布及び指示を致します

**予習復習のアドバイス**

コミュニケーションが苦手な人は知識を得て冷静になれるように、得意な人は自分がいまっている

コミュニケーション技術に名付けるように、学問としてコミュニケーションを学ぶ姿勢で受講して下さい

記載日 R3 年3月25 日

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	4 時限目		
科目名	解剖学Ⅰ	講義曜日	月	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	学生がすべての臨床科目の基礎になる解剖学の中で内臓系と運動器系（骨、関節、筋）についての基本的な解剖学的構造、名称、機能について理解できること				
	<b>到達目標</b>				
主な内臓の構造と全身の骨の形態、関節、筋の構造や働き等について正しく解剖学的に理解ができること（重要な注意） <u>授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです</u>					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	体の分け方用語、名称 (第1章、解剖学総論Ⅰ、Ⅱ)	9	関節各論（3. 下肢、上肢） (第3章P123-、137-)
2	骨学、関節総論 (第2章、骨格総論、関節靭帯総論)	10	関節各論（4.上肢） (第3章P137-)
3	骨学各論（1.上肢）（第2章P68-） 細胞組織系（課題の内容）	11	内臓系（1.消化器） (第7章P370-)
4	骨学各論（2.体幹） (第2章P58-)	12	内臓系（消化器②、2.呼吸器） (第7章P370-、P360-)
5	骨学各論（3.頭頸部） (第2章P46-)	13	内臓系（呼吸器②、3.泌尿器） (第7章P360-、P384-)
6	骨学各論（4.下肢） (第2章P78-)	14	内臓系（4.男性生殖器） (第7章P384-)
7	骨学各論（5.下肢）、関節1（頭部） (第2章P46-、第3章P113.114)	15	内臓系（男性生殖器②5.女性生殖器） (第7章P384-)
8	関節各論（2.体幹、下肢） (第3章P114-、137-)	16	

**講義方法**

パワーポイントを使用した講義中心であるが、適宜課題や問題演習等も行う予定である  
(特に課題は真剣に取り組んで下さい。内容も重要なものです)

**講義で使用する機器・教材**

パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定

**履修上の注意事項**

授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である (専門科目の心得、(あくまでも1つのヒントです)) 1、該当項目の教科書を読んてくる 2、授業で理解に努める(実際にここで100%は無理です) 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする(これも1回ではなかなかできません)

**成績評価方法**

期末試験(100%) + (課題等加算予定あり) にて成績を評価する  
授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される

**教科書**

PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第5版)

**参考書** アトラスとテキスト人体解剖(原書 第6版)(南江堂)  
日本人人体解剖学(第20版)

**予習復習のアドバイス**

解剖学の中でも特に運動器系では複雑な解剖学的名称がたくさん出てくるので、難しい名称に惑わされずきちんと予習、復習してうまく整理することがポイントです。臨床実習でも国試でも卒業後もずっと関わる最重要科目です。試験前の一夜漬けだけでは対応できません

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	3 時限目		
科目名	解剖学II	講義曜日	火	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	室井由美子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	人体における細胞・組織・器官（神経・感覚器）の構造と機能について理解できる。				
	到達目標				
	作業療法士に必要とされる神経系・感覚器系の基本構造を知る				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	神経系総論 神経組織	9	末梢神経系 腕神経叢・胸神経
2	神経系総論 髄膜と脳室・神経系の発生	10	末梢神経系 腰神経叢・仙骨神経叢
3	中枢神経系 脊髄・延髄	11	末梢神経系 脳神経
4	中枢神経系 橋・中脳	12	末梢神経系 自律神経系
5	中枢神経系 小脳・間脳	13	感覚器系 外皮・角質器
6	中枢神経系 大脳	14	感覚器系 視覚器
7	中枢神経系 感覚・運動神経路	15	感覚器系 平衡聴覚器
8	末梢神経系 脊髄神経構造・頸神経叢	16	

**講義方法**

パワーポイント、配布印刷物

\*シラバスに記載された内容は予め告げて変更になる場合がある

**成績評価方法**

小試験・期末試験

**教科書：参考書**

PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (第5版) 医学書院

**予習復習のアドバイス**

復習として色鉛筆を用意しテカラーリングをしながら構造を覚える

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	2 時限目		
科目名	解剖学II（脈管系）	講義曜日	月	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	人体における細胞・組織・器官（脈管系）の構造と機能について理解できる。				
	<b>到達目標</b>				
	講義と並行して行われる触診演習などとともに、基礎医学、臨床作業療法学を学習するために必要な形態学的な基礎を作ること为目标とする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脈管系 1（心臓系）（教科書 P337-340）（狩野）		
2	脈管系 2、3（血管系、動脈系詳細）教科書 P341-350）（狩野）		
3	脈管系 3、4（動脈詳細、静脈系）（教科書 P350-354）（狩野）		
4	脈管系 5（リンパ系）（教科書 P355-357）（狩野）		

### 講義方法

パワーポイントを使用した講義中心であるが、適宜課題や問題演習等も行う予定  
 パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定

### 成績評価方法

**最終的な解剖学IIの評定は、室井先生分と合算されます。**

20点分（15分）の試験を行う予定です。（再試は室井先生分+狩野分は分けません）

### 教科書・参考書

PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（第5版）

アトラスとテキスト人体解剖（原書 第6版）（南江堂） 日本人人体解剖学（第20版）

### 予習復習のアドバイス

1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める（実際にここで100%は無理です） 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習を行う

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	3 時限目		
科目名	解剖学Ⅲ	講義曜日	木	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	前期の解剖学Ⅰの講義の続き（筋学各論）を行ない、運動器系（筋）についての基本的な解剖学的構造、名称、機能について理解できるようにする				
	<b>到達目標</b>				
	筋の解剖学的構造を理解することにより、作業療法士として臨床に必要な運動器系の解剖学的構造を理解できるようにする。他の触診実習等の科目と合わせて、理解を深めて下さい				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	筋学総論、筋学各論（1.体幹の筋） （第4章P164-、P184-）	11	
2	筋学各論（2.体幹の筋、頭頸部の筋1） （第4章P184-、P178-）	12	
3	筋学各論（3.頭頸部の筋2） （第4章P178-）	13	
4	筋学各論（4.下肢の筋1） （第4章P211-）	14	
5	筋学各論（5.下肢の筋2、上肢の筋1） （第4章P211-、P196-）	15	
6	筋学各論（6.上肢の筋2） （第4章P196-）	16	
7	筋学各論（7.上肢の筋3）、復習の問題演習 （第4章P196-）	17	
8	復習の国試問題演習	18	
9		19	
10		20	

**講義方法**

パワーポイントを使用した講義中心であるが、適宜課題や問題演習等も行う予定である  
(特に課題は真剣に取り組んで下さい。内容も重要なものです)

**講義で使用する機器・教材**

パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定

**履修上の注意事項**

授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である (専門科目の心得、(あくまでも1つのヒントです)) 1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める(実際にここで100%は無理です) 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする(これも1回ではなかなかできません)

**成績評価方法**

期末試験(100%) + (課題等加算予定あり) にて成績を評価する  
授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される

**教科書**

PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第5版)

**参考書**

アトラスとテキスト人体解剖(原書 第6版)(南江堂)  
日本人人体解剖学(第20版)

**予習復習のアドバイス**

解剖学の中でも特に運動器系では複雑な解剖学的名称がたくさん出てくるので、難しい名称に惑わされずきちんと予習、復習してうまく整理することがポイントです。臨床実習でも国試でも卒業後もずっと関わる最重要科目です。試験前の一夜漬けだけでは対応できません

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	触診技術実習	講義曜日	金	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	矢野大輔	実務経験	医療機関、介護施設に14年作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	解剖学や運動学の講義内容を踏まえて、対象者へ運動を処方するにあたり、その評価を行うための機能解剖学的触診法を身につける。				
	<b>到達目標</b>				
	触診を通して臨床で必要なランドマーク、体表の筋の立体構造を理解する。 学生同士においてではあるが触診方法を身につける。 課題演習を通して骨や筋の名称と部位を憶える。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	肢位、運動の面と軸・方向 姿勢、触診方法、骨の基本構造、関節	13	骨・靭帯の触診⑩－脊柱
2	骨・靭帯の触診①－肩甲骨、鎖骨	14	筋・神経・血管の触診①-肩甲上腕関節の筋
3	骨・靭帯の触診①－肩甲骨、鎖骨	15	筋・神経・血管の触診②-肩甲上腕関節の筋
4	骨・靭帯の触診②－上腕骨	16	筋・神経・血管の触診③－肩甲胸郭関節の筋
5	骨・靭帯の触診③－橈骨、尺骨	17	筋・神経・血管の触診④－肘関節の筋
6	骨・靭帯の触診③－橈骨、尺骨	18	筋・神経・血管の触診⑤－手関節、手指の筋
7	骨・靭帯の触診④－手根骨、指骨	19	筋・神経・血管の触診⑥－手関節、手指の筋
8	骨・靭帯の触診⑤－骨盤	20	筋・神経・血管の触診⑦－股関節の筋
9	骨・靭帯の触診⑥－大腿骨 スカルパ三角	21	筋・神経・血管の触診⑧－膝関節の筋
10	骨・靭帯の触診⑦－膝関節周囲	22	筋・神経・血管の触診⑨－足関節の筋

11	骨・靭帯の触診⑧－足部	23	筋・神経・血管の触診⑩－足関節の筋
12	骨・靭帯の触診⑨－胸郭	24	

### 講義方法

実習着（ケーシー型白衣）を着用すること。ジーンズやスカートなどの服装は不可（評定から減点とする）。爪を必ず切っておくこと。

### 成績評価方法

実技課題15%、筆記課題70%、実習態度15%を総合的に判断して評価する。

### 教科書

運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 上肢、下肢・体幹

### 予習復習のアドバイス

相互触診は模型などの位置関係と生体における位置関係をうまく修正するように意識すること  
講義においては、適宜資料を配布するので、予習・復習に役立てること

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	4 時限目		
科目名	生理学Ⅰ	講義曜日	火	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	学生がすべての臨床科目の基礎になる生理学において人体の解剖学的構造と関連した生理学的機能について理解できるようにする				
	<b>到達目標</b>				
	からだの基本的な生理学的機能全般について理解することができるようにする (重要な注意) 授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです (問題演習はIpad使用)				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	生理学の導入、細胞の働き (1章P1-)	9	循環の生理学 (3、血圧、血管機能) (15章P262-282)
2	骨の生理学 (10章P163-)	10	循環の生理学 (4、血圧、血管機能) (15章P262-282)
3	筋の生理学 (1) (4章P37-)	11	体温調節機能 (19章P331-)
4	筋の生理学 (2) (4章P37-)	12	咀嚼、嚥下、消化、吸収 (1) (13章P213-)
5	血液の生理学 (14章P235-)	13	咀嚼、嚥下、消化、吸収 (2) (13章P213-)
6	体液の生理学 (18章P321-)	14	排尿、排泄 (17章P303-)
7	循環の生理学 (1、心臓機能) (15章P249-261)	15	免疫の仕組みと働き (14章P244-)
8	循環の生理学 (2、心臓機能) (15章P249-261)	16	

**講義方法**

パワーポイントを使用した講義中心であるが、各項目ごとに適宜問題演習を行う（問題演習は使用）解剖学同様課題を出す予定です

**講義で使用する機器・教材**

パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定

**履修上の注意事項**

授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である（専門科目の心得、（あくまでも1つのヒントです））1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める（実際にここで100%は無理です） 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする（これも1回ではなかなかできません）

**成績評価方法**

期末試験（100%）+（課題等加算予定あり）にて成績を評価する  
授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される

**教科書**

シンプル生理学改訂第8版（南江堂）

**参考書**

やさしい生理学改訂第6版（南江堂）

**予習復習のアドバイス**

- ・解剖学的構造、生理学的機能は密接に関連する場合が多いので両者は関連づけて学習するようにしましょう。
- ・基礎科目は試験前の一夜漬けではなく少しずつでも日々の予習、復習をしっかりと行ないましょう。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	2 時限目		
科目名	生理学 II	講義曜日	火	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	一般目標				
	前期に引き続いて臨床科目の基礎になる生理学において人体の解剖学的構造と関連した生理学的機能について理解できるようにする				
	到達目標				
	からだの基本的な生理学的機能全般について理解することができるようにする （重要な注意）授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです（問題演習はIpad使用）				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	睡眠、感覚の生理学（1） （5章P59-、8章P125-128）	9	内分泌系（1） （9章P139-）
2	感覚の生理学（2） （5章P59-）	10	内分泌系（2） （9章P139-）
3	感覚の生理学（3）栄養と代謝（1） （5章P59-、11章P201-）	11	神経系の機能（1） （4章P52-）
4	栄養と代謝（2） （11章P201-）	12	神経系の機能（2） （6章P91-）
5	呼吸生理 （15章P281-）	13	神経系の機能（3） （8章P121-）
6	生殖機能 （10章P184-）	14	神経系の機能（4） （8章P121-）
7	神経の基本機能（1） （2章P13-）	15	神経系の機能（5） （7章P99-）
8	神経の基本機能（2） （2章P13-）	16	

**講義方法**

パワーポイントを使用した講義中心であるが、各項目ごとに適宜問題演習を行う（問題演習は使用） 解剖学同様課題を出す予定です

**講義で使用する機器・教材**

パワーポイント、配布印刷物、 Terms 使用予定

**履修上の注意事項**

授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である（専門科目の心得、（あくまでも1つのヒントです）） 1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める（実際にここで100%は無理です） 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする（これも1回ではなかなかできません）

**成績評価方法**

期末試験（100%）+（課題等加算予定あり）にて成績を評価する  
授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される

**教科書**

シンプル生理学改訂第8版（南江堂）

**参考書**

やさしい生理学改訂第6版（南江堂）

**予習復習のアドバイス**

- ・解剖学的構造と生理学的機能は密接に関連する場合が多いので両者は関連づけて学習するようにしましょう。
- ・基礎科目は試験前の一夜漬けではなく少しずつでも日々の予習、復習をしっかりと行ないましょう。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	運動学	講義曜日	月	講義回数	30
		総時間数	60	単位数	4
講師名	矢野大輔	実務経験	医療機関に3年4か月、介護施設に10年8か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	人体の運動メカニズムをあらゆる観点から理解し、作業療法の基礎となる知識技術を習得する				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関節の特徴を解剖学的・運動学的視点で理解し、説明出来る</li> <li>・運動学習やその効果を理解し、説明できる</li> <li>・運動学的重要性を説明でき、姿勢・運動・動作を力学的視点で説明出来る</li> </ul>				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	オリエンテーション 運動学とは	16	脊柱の構造と機能②		
2	関節運動と運動面・運動軸	17	脊柱の構造と機能③		
3	関節運動学・運動力学 凹凸の法則、トルク(力のモーメント)	18	股関節の構造と機能①		
4	ニュートン運動法則・生体力学的てこ ベクトル	19	股関節の構造と機能②		
5	姿勢、重心、支持基底面 力と速度、加速度、仕事	20	膝関節の構造と機能①		
6	関節の構造と機能	21	膝関節の構造と機能②		
7	骨格筋の構造と機能	22	足関節の構造と機能①		
8	肩複合体の構造と機能①	23	足関節の構造と機能②		
9	肩複合体の構造と機能②	24	寝返り～座位の姿勢と動作		
10	肘・前腕複合体の構造と機能①	25	立ち上がり～立位の姿勢と動作		
11	肘・前腕複合体の構造と機能②	26	歩行の基礎知識①		
12	手関節の構造と機能	27	歩行の基礎知識②		
13	手の構造と機能①	28	歩行の基礎知識③		
14	手の構造と機能②	29	咀嚼と換気のキネシオロジー		
15	脊柱の構造と機能①	30	運動学習		

**講義方法**

基本的には座学の授業となります。教科書と配布プリントを使用して進めますので配布資料はファイリングして講義に持参してください。

**成績評価方法**

課題評定、試験（前期中間・期末、後期中間・期末）で評定します。試験毎に再試験を行います。  
※通年の科目であるので、前期・後期合算平均で、総合評定します。

**教科書**

Paul Jackson Mansfield 筆 「エッセンシャルキネシオロジー 原書第3版」

**参考書**

宮本省三 他 筆 「人間の運動学」 協同医書出版

Kirsten Gotz-Neumann 「観察による歩行分析」 医学書院

**予習復習のアドバイス**

自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか質問に来てください。解剖学・生理学の基礎的な知識を踏まえての学習になりますので、復習を怠らず進めてください。

## 講義要項(シラバス)

年度	2023年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	人間発達学	講義曜日	金	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	上遠野純子、藤井 昌彦	実務経験	上遠野:医療機関(リハ専門病院・大学病院)20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 人という存在に関して時間の中での変化を、生涯にわたる発達的な視点をもって捉え、各時期の特徴をおさえつつ、個々人を理解し何が出来るか、その支援のあり方を考察できる。				
	<b>到達目標</b> I. 人の発達とは、生涯発達の理論を理解し、環境の中での人の発達を、生得要因と環境要因双方から理解する。 II. 乳児期、幼児期、児童期における発達過程について理解する。 ①運動発達②認知発達③言語発達④社会性(対人関係)について説明できる。 III. 青年期、成人期、老年期における発達過程について理解する。 ①身体構造の変化②生理機能の変化③心理・社会的変化について説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	/	人の発達とは 生涯発達の理論	11	/	青年期の発達段階と発達課題
2	/	環境の中での人の発達 発達の原則、生得要因と環境要因	12	/	成人期の発達段階と発達課題
3	/	心理的な発達を理解する 知能と認知の生涯発達	13	/	老年期の発達と成熟 老化とは
4	/	心理的な発達を理解する 言語とコミュニケーションの生涯発達	14	/	老年期の発達と成熟 老化が及ぼす心理的影響
5	/	心理的な発達を理解する 情動の生涯発達	15	/	老年期の発達と成熟 サクセスフル・エイジング
6	/	心理的な発達を理解する 自己の生涯発達			
7	/	心理的な発達を理解する 人間関係、社会性の生涯発達			
8	/	乳児期の発達段階と発達課題			
9	/	幼児期の発達段階と発達課題			
10	/	児童期の発達段階と発達課題			

<b>講義方法</b> 教科書、資料を用いて行う。
<b>講義で使用する機器・教材</b>
<b>履修上の注意事項</b> ・講義資料を適宜、ファイルに閉じる。 ・講義内容を聞き取りノートを作成下さい。
<b>成績評価方法</b> 試験・課題にて総合的に評価を行う
<b>教科書・参考書</b> 岩崎清隆 執筆 ”人間発達学”第2版 標準理学療法学・作業療法学 医学書院
<b>予習復習のアドバイス</b>

記載日 令和 5 年 3 月 6 日

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	一般臨床医学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	大沼英子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	各種疾病とその病因、病態生理について医療人として最低限の知識を習得し、自らが専門とする分野の知識・技術を習得するための基礎を築く				
	到達目標				
	①各種疾病やその病因、病態生理に関心を持ち、一層の向学心を持つことができる ②各種疾病や病態生理、診断、治療の最低限の知識を想起できるようになる ③知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない客観的で全人的な医療を行う姿勢を持つ				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	代謝異常・退行性病変①	9	炎症
2	代謝異常・退行性病変②	10	炎症と疾患
3	代謝異常と疾患	11	免疫
4	循環と循環障害	12	免疫と感染性
5	循環障害と疾患①	13	腫瘍①
6	循環障害と疾患②	14	腫瘍②
7	進行性病変と疾患①	15	まとめ
8	進行性病変と疾患②	16	

**講義方法**

パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた講義形式

**講義で使用する機器・教材**

PC、スクリーン、配布プリント、適宜Ipadを使用する。

**履修上の注意事項**

授業形態の変更等により講義の内容や進め方の変更が生じる場合があります。  
学習の補足のために、できるだけ振り返りと復習を心掛けて行ってください。

**成績評価方法**

定期試験およびレポート、課題などで総合的に評価する

**教科書**

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 第4版 医学書院

**参考書**

必要に応じ適宜説明する

**予習復習のアドバイス**

配布プリント、スライドで十分でない場合は、各自参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解を深めるようにしてほしい。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	4時限目		
科目名	病理学	講義曜日	月	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1年
講師名	大沼英子	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各種疾病とその病因、病態生理について医療人として最低限の知識を習得し、自らが専門とする分野の知識・技術を習得するための基礎を築く				
	<b>到達目標</b>				
	①各種疾病やその病因、病態生理に関心を持ち、一層の向学心を持つことができる ②各種疾病や病態生理、診断、治療の最低限の知識を想起できるようになる ③知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない客観的で全人的な医療を行う姿勢を持つ				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	病気とは 病理学とは	9	
2	病態と病因①	10	
3	病態と病因②	11	
4	病態と病因③	12	
5	病態と病因④	13	
6	病因と病態⑤	14	
7	病因と病態⑥	15	
8	病因と病態⑦	16	

**講義方法**

パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面  
講義形式P C、スクリーン、配布プリント、Ipadを使用する。

**成績評価方法**

小テスト、レポート、試験等で総合評定する

**教科書・参考書**

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 第4版 医学書院

**予習復習のアドバイス**

配布プリント、スライドで十分でない場合は、各自参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解を深めるようにしてほしい。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	臨床心理学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	宇佐美 貴章	実務経験			
講義目標	一般目標				
	臨床心理学的な視点を体験する				
	到達目標				
	講義によって、患者さんと関わる際に活用できる臨床心理学的視点を知る ワークによって、臨床心理学的な体験をする				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	その人なりの現実を知ろうとする	9	悲しい気持ちにフタをして気づかないようにする
2	困りごとを外在化する	10	悲しくなかったことにしようとする
3	本当の自己と偽りの自己	11	悲しいときほど元気を出す
4	「わからない」ことから始める	12	悲しみをともに抱えてもらう
5	2つの「話をきく」	13	マイナスな状況を耐える力
6	ことばはなくても思いはある	14	「わたし」を主語にしたコミュニケーション
7	心理学的な報・連・相の仕方	15	
8	困った言動を本人なりの対処として捉える	16	

**講義方法**

講義・映像視聴・ワーク

**成績評価方法**

授業および授業内でのワーク

**参考書**

「大切な人が死ぬとき」水谷緑      Shrink～精神科ヨワイ～ 月子

**予習復習のアドバイス**

教科書を読みこむと理解が深まると思います

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	2時限目		
科目名	栄養学	講義曜日	木	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	笹山 由貴	実務経験			
講義目標	一般目標				
	栄養学の基礎を理解し、正しい知識を身に付ける。				
	到達目標				
	基本的な栄養・代謝について説明できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 五大栄養素	11	
2	蛋白質とアミノ酸、酵素	12	
3	糖質、脂質の代謝	13	
4	ビタミン、ミネラル	14	
5	消化と吸収、ホルモン	15	
6	エネルギー代謝、運動と栄養	16	
7	まとめ	17	
8	テスト	18	
9		19	
10		20	

**講義方法**

パワーポイントと教科書で進める

**成績評価方法**

期末テスト100%（1/3以上欠席した場合は単位を修得することができないので留意のこと）

**参考書**

リハベーシック 生化学・栄養学

**予習復習のアドバイス**

予習 教科書を一通り目を通しておくこと

復習 授業終了後にワークを配信するので、ワークで復習する事。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1学年
学 科	作業療法科/理学療法科	講義時間	変則		
科目名	救急医学/救命救急医学	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	久志本、古川、吉崎伸一、上遠野	実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。心肺蘇生・応急処置について学ぶ。災害時におけるリハビリテーション職種の役割を理解する				
	<b>到達目標</b>				
	①救急医療体制について説明できる ②患者の急変時での基礎的な観察・処置を理解する。③心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	救急医療体制について	11	
2	ショックの病態と身体所見、ショックの分類と応急処置	12	
3	脳死と臓器提供	13	
4	アドバンスケアプランニング（ACPについて）	14	
5	アドバンスケアプランニング（ACPについて）	15	
6	心肺蘇生・AED	16	
7	大規模災害時における活動内容の概要	17	
8	大規模災害時における活動内容の概要	18	
9		19	
10		20	

**講義方法**

パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式

BLSについての実技演習 災害時の活動内容の概要を知るために、多職種によるチームビルディング演習等

**成績評価方法**

小テスト、レポート等で総合評定する

**教科書・参考書**

教科書は特に指定しない

**予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前 期	学 年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	リハビリテーション概論	講義曜日	水	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年，福祉機関（通所介護）7年，作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーションを正しく理解する.正しい知識を持ち医療・保険・福祉領域の現状を把握する.各専門職の役割・業務内容を知る.				
	<b>到達目標</b>				
	学生がリハビリテーションの理念を理解できる. 学生がリハビリテーションを構成している諸領域や役割を理解している. 学生がICFの概念を理解できる.				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	リハビリテーションの定義・歴史 理学療法士および作業療法士法	9	ノーマライゼーション バリアフリー，QOL
2	リハビリテーション介入の流れ ～病気と障害 / 急性期・回復期・維持期～	10	クリニカルパス
3	リハビリテーション関連職種とその役割 チームアプローチ・リハ手段	11	障害受容 ① ～分類～
4	評価会議とゴール設定 ①	12	社会参加を支える制度 ① ～障害者基本法～
5	評価会議とゴール設定 ②	13	参加制約へのアプローチ ～家族と家庭～
6	国際疾病分類（ICD）	14	総合リハビリテーション
7	国際生活機能分類（ICF） ①	15	リハビリテーション諸相 ～医学的・教育的・職業的・社会的・地域
8	国際生活機能分類（ICF） ②	16	

**講義方法**

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。  
グループ学習

**成績評価方法**

試験（100％）で成績を評価する。  
また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。  
授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

**教科書（参考書）**

リハビリテーション概論のいろは  
（入門リハビリテーション概論 第7版増補）（「よくわかるリハビリテーション」）

**予習復習のアドバイス**

教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。  
講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

## 講義要項(シラバス)

年度	2023年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	4時限目		
科目名	作業療法概論	講義曜日	木	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関(リハ専門病院・大学病院)20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
到達目標	作業療法実践を知ることの中で、生活と作業との関係や作業療法士の役割を理解する。領域別・病期別の作業療法過程を学び、リハビリテーションにおける作業療法の位置づけを理解する。また、職業人として職業倫理を高める。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	/	オリエンテーション 作業療法についての「作業」の意味	11	/	作業療法の実際 (精神科領域)
2	/	作業療法とは (目的・対象・治療手段)	12	/	作業療法部門の管理運営 関連法規
3	/	生活と作業① (ライフサイクルと環境)	13	/	職業人としての倫理
4	/	生活と作業② (健康とは)	14	/	職能組織としての活動(生涯教育)
5	/	作業療法の歴史 (日本の作業療法の歴史、現状と課題)	15	/	作業の治療的意味
6	/	作業療法の実際 (医療領域～急性期)	16		
7	/	作業療法の実際 (医療領域～回復期)	17		
8	/	作業療法の実際 (福祉領域)	18		
9	/	作業療法の実際 教育支援領域	19		
10	/	作業療法の実際 (生活期～終末期)	20		

<b>講義方法</b> 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料を配布する。
<b>講義で使用する機器・教材</b> PC、プロジェクター
<b>履修上の注意事項</b> 特になし
<b>成績評価方法</b> 学期末試験(70%)や出席率(20%)と併せて、課題(10%)によって成績を評価する また適宜レポート作成を行い、評価のための資料とする
<b>教科書</b> 標準作業療法学 作業療法学概論第3版 医学書院
<b>参考書</b> 特に指定しない。
<b>予習復習のアドバイス</b> 事前に教科書を読んで、予習をすること。

記載日 令和5年3月6日

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	作業療法理論	講義曜日		講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関(リハ専門病院・大学病院) 20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	作業療法の専門性を改めて見出すために開発された各種作業療法理論、モデル、ツールの位置づけを理解した上で、その実践的応用を学ぶ				
	<b>到達目標</b>				
	作業療法の専門性を改めて見出すために開発された各種作業療法理論、モデル、ツールの位置づけを理解した上で、その実践的応用を学ぶ				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法の基本原理と目的 作業療法における理論とは何か	5	感覚統合
2	MTDLP	6	発達理論
3	COPM	7	代償的補装具的アプローチ
4	生体力学・運動制御的アプローチ	8	集団理論的（対人間関係技術）アプローチ

### 講義方法

パワーポイントと教科書で進める。

### 成績評価方法

演習課題、レポート他授業態度等で総合的に評価する

### 教科書

作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考えかた第2版 医学書院

### 予習復習のアドバイス

予習 教科書に目を通しておくこと

復習 ノートや教科書を復習し知識を整理すること

## 講義要項(シラバス)

年度	2022年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	基礎作業学概論	講義曜日	変則	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1年
講師名	淀川 裕美	実務経験	リハ専門病院3年, 介護施設2年, 訪問地域作業療法領域10年, 作業療法士として勤務		
到達目標	人の暮らしの中にある作業とは何かを定義と分類に沿って説明することができ, 何故作業療法が作業を取り扱うのかを説明できる. 作業を分析する枠組みについて説明することができる.				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	6月13日	オリエンテーション 人間と作業 p4~9	11	/	
2	6月20日	作業の種類と分類 意味・形態・機能 p19~22	12	/	
3	6月27日	作業と道具・環境 個人因子 p26	13	/	
4	7月4日	実践紹介	14	/	
5	7月11日	ライフステージと作業 p174~200	15	/	
6	7月18日	分析の視点(運動機能)	16	/	
7	8月22日	分析の視点(心理機能)	17	/	
8	8月29日	作業を捉える枠組み 工程分析・包括的作業分析	18	/	
9	/		19	/	
10	/		20	/	

### 講義・実習方法

主に座学講義・グループワークにて実施する。

(遠隔講義中)リアルタイム双方向・課題を組み合わせで実施する。実施方法についてはteamsにて連絡

### 講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター

### 履修上の注意事項

話している内容をメモするように心がけて受講してください。

聞き洩らしたことや書ききれなかったことは必ず後に確認をしてください。

(紙資料配布の場合)欠席等で資料がない場合は、担当教員まで取りに来る、他学生からコピーさせてもらう等して、必ず資料は揃えておいてください

### 成績評価方法

課題50%、期末試験50%にて評定する。ただし、遠隔講義の導入割合によって、課題評定の割合が増加する可能性があるため、課題の提出期限と内容に注意してください。

### 教科書

基礎作業学 第3版/医学書院

### 参考書

適宜指示、配布を致します

### 予習復習のアドバイス

講義開始前に講義資料を一読し、わからない単語にマークをつけ、講義を集中して聞くポイントとする予習がおすすめです。わからないことは必ず担当教員にできるだけ早く確認を。

(後回しにすると、わからないところもわからなくなります)

記載日 R3年3月25日

## 講義要項（シラバス）

年度	2023年度	時期	通年	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	基礎作業学実習	講義曜日	変則	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	酒井 良隆、佐藤 秀美	実務経験	【酒井】医療機関に12年勤務 【佐藤】医療機関に9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	主要な作業の作業分析、活動分析、作業遂行分析が行える				
	<b>到達目標</b>				
	* 主要な作業についての手順が説明できる * 作業療法で利用される作業活動を経験し、特性や人・環境との影響も説明で				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 科目で学ぶこと	13	〈ADL3〉 起居動作② 立ち上がり～立位～歩行
2	オリエンテーション 科目で学ぶこと	14	〈Leisure3〉 散歩① 計画立案
3	〈Leisure1〉 革細工① キーホルダー	15	〈Leisure3〉 散歩② 計画実施
4	〈Leisure1〉 革細工② キーホルダー	16	〈Leisure3〉 散歩③ 計画実施・振り返り
5	〈Leisure2〉 紙細工① ちぎり絵	17	〈Work1〉 職業調べ① 発表
6	〈Leisure2〉 紙細工② ちぎり絵	18	〈Work2〉 職業調べ② 発表
7	〈Leisure2〉 紙細工③ ちぎり絵	19	〈ADL4〉 トイレ① 洋式トイレ
8	〈ADL1〉 更衣① 上衣	20	〈ADL4〉 トイレ① 福祉用具
9	〈ADL1〉 更衣② 下衣	21	〈Work2〉 調理① 計画立案
10	〈ADL2〉 食事① 箸・フォーク・スプーンでの動作の違い	22	〈Work2〉 調理② 計画実施
11	〈ADL2〉 食事② 食形態による動作の違い	23	〈Work2〉 調理③ 計画実施・分析
12	〈ADL3〉 起居動作① 寝返り～起き上がり～座位	24	

**講義方法**

実技と講義形式を混合に行います

**成績評価方法**

作業課題と分析（100％）・授業態度（減点方式）にて評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しない場合、成績評価できない。

**教科書**

標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院

**予習復習のアドバイス**

配布資料は必ずファイリングすること。適宜グループのメンバーと意見交換をすること。

## 講義要項(シラバス)

年度	2023年度	時期	後期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	作業療法特論 I	講義曜日	変則	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野 大輔 , 淀川 裕美	実務経験	矢野:医療機関、介護施設に14年勤務 淀川:医療機関、介護施設, 訪問地域作業療法領域に15年勤務		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学、生理学の基礎科目について、理解度の補強を図る</li> <li>・国家試験の概要を理解することから、現在の学習内容の必要性を理解する</li> <li>・自身の学習方法と学習習慣を確立することができる</li> <li>・年度末の医歯薬基礎三科目模試で35点以上をとる</li> </ul>				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	/	オリエンテーション/①細胞・発生	11	/	小テスト 復習
2	/	②骨格系	12	/	⑦消化器
3	/	小テスト 復習	13	/	小テスト 復習
4	/	③筋系 (筋張力の追加資料必要)	14	/	⑧生殖器・免疫・体温
5	/	小テスト 復習	15	/	小テスト 復習
6	/	④体液・血液	16	/	
7	/	小テスト 復習	17	/	
8	/	⑤循環器	18	/	
9	/	小テスト 復習	19	/	
10	/	⑥呼吸・泌尿器系	20	/	

**講義方法**

- ・解剖学、生理学の講義の進捗に合わせて勉強範囲を提示します。
- ・小テストを実施し学習状況のチェックを行い、学習の習慣化を図ります。

**講義で使用する機器・教材**

PC プロジェクター

**履修上の注意事項**

- ・学習方法の確立を目指して、様々な方法を試してください。自分に最も合っている方法を見つけましょう。
- ・「勉強することは、特別な事」から「当たり前の事」へ脱却を図りましょう。
- ・当たり前に勉強することが習慣化され、「やらないと気持ち悪いもの」になることを目指してください。

**成績評価方法**

小テストの平均点数(%),授業態度,出席の総合評価で評定します

**教科書**

PT・OT国家試験共通問題 できるもんでたもん【基礎医学】第2版 医学書院

**MONOXER****参考書**

適宜指示、配布を致します

**予習復習のアドバイス**

基礎となる解剖学、生理学が理解されることで、2年次の専門科目の理解に繋がります。ペース配分を考えて計画的に取り組みましょう

記載日 R5年 3月 20日

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	基礎検査測定実習	講義曜日	水	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	矢野大輔、藤井貴、佐藤秀美	実務経験	藤井：作業療法士として医療機関に7年、福祉機関に7年勤務、矢野：医療機関に3年4か月、介護施設に10年8か月勤務、佐藤：医療機関に9年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	作業療法分野における測定・評価方法（形態測定・感覚・深部健反射・上肢機能検査・ROM・MMT・バランス評価・協調性検査）を正しく理解する				
	<b>到達目標</b>				
	①対象者へのプログラム立案および目標設定の際の重要な情報の一つとして認識する ②対象者の身体状況を可能な限り客観的に抽出し、的確に測定・評価を行い、				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション バイタル測定	13	感覚検査①講義 表在・深部
2	形態測定 講義・実技 四肢長・周径	14	感覚検査②実技 表在・深部
3	反射検査①講義 深部反射・表在反射・病的反射	15	MMT測定①講義・実技 総論・肩関節
4	反射検査②実技 深部反射・表在反射・病的反射	16	MMT測定②講義・実技 肩関節・肘関節
5	ROM測定①講義・実技 総論・上肢（肩関節）	17	MMT測定③講義・実技 肘関節・前腕・手関節
6	ROM測定②講義・実技 上肢（肩関節・肘関節）	18	MMT測定④講義・実技 股関節
7	ROM測定③講義・実技 上肢（前腕・手関節）	19	MMT測定⑤講義・実技 膝関節
8	ROM測定④講義・実技 下肢（股関節）	20	MMT測定⑥講義・実技 足関節
9	ROM測定⑤講義・実技 下肢（股関節・膝関節）	21	バランス検査①講義 立ち直り・平衡反応
10	ROM測定⑥講義・実技 下肢（膝関節・足関節）	22	バランス検査②実技 立ち直り・平衡反応

11	協調性検査①講義 上肢・下肢	23	上肢機能検査 STEF
12	協調性検査②実技 上肢・下肢	24	

### 講義方法

講義形式の授業で基礎知識を理解する。実技を通して的確に測定・評価を行えるようにする。

### 成績評価方法

実技テスト80%（前半40%、後半40%）筆記試験20%

### 履修上の注意事項

実技演習の際は積極的に体験するように努める事  
実習着（ケーシー）着用、臨床実習相応の身なりに整える（不十分な場合は適宜指導する）

### 教科書・参考書

作業療法評価学、PT・OTのための測定評価（ROM測定・形態測定・反射検査）、新徒手筋力検査、ベッドサイドの神経の診かた

### 予習復習のアドバイス

授業で配布されたプリント資料などを内容別に整理ファイリングして、後日利用できるようにする  
講義開始時に前回分の実技内容の確認を行うので復習・練習しておくこと

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	3時限目		
科目名	日常生活活動実習Ⅰ	講義曜日	変則	講義回数	23回
		総時間数	45	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年勤務		
講義目標	一般目標				
	①日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる				
	②日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる				
	到達目標				
①日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる					
②日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	はじめに 本講義で行うこと・ADLとは	13	排泄
2	ADLの領域と評価	14	入浴
3	ADL・IADLの評価	15	入浴
4	ADL各論について	16	家事（調理）
5	起居	17	家事（掃除等）
6	食事	18	家事（その他）
7	食事	19	育児
8	更衣	20	ADLにおけるOT支援
9	更衣	21	ADLと福祉用具
10	整容	22	ADLと福祉用具関連制度
11	整容	23	まとめ
12	排泄	24	

**講義方法**

対面講義形式を原則とし、事情を鑑みてオンライン等も対応する

**成績評価方法**

筆記試験を80%とし、出席及び実技(演習)状況を20%で評定に加味します

**参考書**

教科書：作業療法学 コールト・マスター・テキスト日常生活活動（ADL）、資料は適宜データを配布

**予習復習のアドバイス**

その都度、実施した内容を振り返り、週内に不明な点は解決できるよう努めましょう！

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	日常生活活動実習Ⅱ	講義曜日	変則	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	①ライフサイクル別の日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる				
	②ライフサイクル別の日常生活活動・手段的日常生活動作の違いや特徴，疾患における影響について説明できる運動学実習で、作業療法に必要な知識と技術				
	<b>到達目標</b>				
①日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる					
②日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ADLにおける作業療法支援法	13	ライフサイクルとADL③青年期
2	ADLと福祉用具	14	ライフサイクルとADL③青年期
3	ADLと福祉用具②	15	ライフサイクルとADL③青年期
4	作業療法における福祉用具	16	ライフサイクルとADL④成人期
5	ADLの関連制度	17	ライフサイクルとADL④成人期
6	住環境と福祉用具におけるADL支援	18	ライフサイクルとADL④成人期
7	ライフサイクルとADL①乳児～幼児	19	ライフサイクルとADL⑤老年期
8	ライフサイクルとADL①乳児～幼児	20	ライフサイクルとADL⑤老年期
9	ライフサイクルとADL①乳児～幼児	21	ライフサイクルとADL⑤老年期
10	ライフサイクルとADL②学童期	22	生涯を通じたADL

11	ライフサイクルとADL②学童期	23	まとめ
12	ライフサイクルとADL②学童期	24	

#### 講義方法

対面講義形式を原則とし、事情を鑑みてオンライン等も対応する

#### 成績評価方法

筆記試験を80%とし、出席及び実技(演習)状況を20%で評定に加味します

#### 参考書

教科書：作業療法学 ゴールト・マスター・テキスト日常生活活動 (ADL)、資料は適宜データを配布

#### 予習復習のアドバイス

その都度、実施した内容を振り返り、週内に不明な点は解決できるよう努めましょう！

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度(令和5 年度)	時 期	通年	学 年	1年
学 科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	見学実習・臨地実習(1年次)	講義曜日	変則	講義回数	
		総時間数	80	単位数	2
講師名		実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床現場で働く作業療法士の姿に接し、役割を理解するとともに、自己の作業療法士像をより具体的なものとしていくことを目標とする。				
	<b>到達目標</b>				
	自己分析を通して自身を理解し、作業療法士像の構築に役立てる。・作業療法士が働く領域及び施設の概要を知る。作業療法士が働く施設や病院等での作業療法士の役割を知る。就労支援や訪問リハ、児童期や思春期の発達支援などで活躍する作業療法士の役割と基本的態度、他職種の役割について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	見学実習・臨地実習オリエンテーション	6	見学実習③
2	見学実習臨地実習準備	7	見学実習④
3	見学実習①	8	見学実習⑤
4	見学実習①の振り返り	9	課題演習
5	見学実習②	10	課題演習

### 講義方法

実習オリエンテーションは講義で行う。演習、グループワークを併用する。

### 成績評価方法

課題の提出状況と内容、出席点などで総合評価を行なう。

グループワークの成果を発表会という形式で行い、発表態度、聴講態度、出席点なども評価点に

### 教科書 参考書

特に指定しない。

### 予習復習のアドバイス

・実習オリエンテーションは必ず出席すること。臨地で行う臨床実習においては、各施設の決まりとしての学びを得る機会として、積極的に関わること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	Basic Communication Training II	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に 作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	社会人としてのコミュニケーションの在り方について、理解できる				
	到達目標				
	社会人としての在り方を求められる、臨床実習の場において、適切なコミュニケーションを理解することができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 1. 挨拶は自分から、2. 相手の領域に入るという事	5	9. 相手から話を引き出す方法（聴く技術） 10. 話を上手に切り上げる方法
2	3. コミュニケーションスキルを学ぶ前に 4. 医療面接での対話の仕方	6	11. 答えにくい質問に応じる方法 12. 否定的な話に対応する方法
3	5. 相手との関係を築く方法 6. 質問の仕方	7	13. 認知症の方とのコミュニケーション 14. 患者さんの家族とのコミュニケーション
4	7. 相手を会話に乗せる方法 8. 話題の提供のしかた	8	15. スーパーバイザーとのコミュニケーション

### 講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。グループ学習

### 成績評価方法

グループワーク（60%）、出席（40%）

### 参考書

PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版 医学書院

### 予習復習のアドバイス

・ 放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。  
学習した内容について、必ず「なぜ?」「どうして?」という探求心をもつてのぞむこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	3・4時限目		
科目名	生理学実習	講義曜日	月、水	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	狩野充浩、高田拓明、上遠野純子	実務経験	歯科医師、作業療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	学生が1年生での生理学の講義の内容をふまえて、実際に実習で生体反応等を見ることによって、生理学的な理解を深めることを目標とする				
	<b>到達目標</b>				
	各実習課題の内容について、実際に計測、データの解析、結果の考察等を行なうことによって、人体の生理学的な機能の理解と、問題解決能力を養うことができるようにする				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	課題1のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	13	課題5のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）
2	課題1のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	14	課題5のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）
3	課題1のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	15	課題5のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）
4	課題2のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	16	演習（血圧・心拍数の測定）
5	課題2のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	17	演習（血圧・心拍数の測定/データ収集）
6	課題2のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	18	視覚単純反応時間測定データ整理
7	課題3のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	19	感覚検査について
8	課題3のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	20	演習（複合感覚検査）
9	課題3のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	21	経皮的電気刺激装置を用いた治療のすすめ方
10	課題4のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）	22	体圧測定演習①

11	課題4のデータ採取、レポート作成 (Lab Station システム) (狩野)	23	体圧測定演習②
12	課題4のデータ採取、レポート作成 (Lab Station システム) (狩野)	24	

### 実習方法

・各課題の内容に沿ってグループ毎に、データ採取、レポート作成、提出までを行って終了したものとする、Lab Station実習システムを使用する

### 実習で使用する機器・教材

・実習に使用する機材等はこちらで準備する、他に必要なものがあれば適宜指示する

### 履修上の注意事項

・実習に使用する機器類の取り扱いには細心の注意を払い、破損等がないようにすること

### 成績評価方法

・実習態度や課題提出状況、課題の内容等を加味して

課題レポート点×0.7 + 出席点 (無欠席で30点) で評価する (狩野分)

最終評定 = (狩野分×0.7) + (上遠野分×0.3)

### 教科書

実習では特に指定はしないが、レポート作成の際に教科書、その他の参考書等は必要

### 参考書

適宜紹介する

### 予習復習のアドバイス

- ・その日の実習課題に相当する部分はあらかじめ教科書等で予習する事
- ・実際に実習で使用する機器は、数が限られる場合があるのでうまく譲りあって使用する事
- ・機器類を使用する際は使用方法を考えて取り扱いに細心の注意を払い、破損や紛失が絶対に起こらないように気をつける事

## 講義要項（シラバス）

<b>年 度</b>	2023年度	<b>時 期</b>	前期	学年	2年
<b>学 科</b>	作業療法学科	<b>講義時間</b>	3・4時限目		
<b>科目名</b>	運動学実習	<b>講義曜日</b>	月	<b>講義回数</b>	23
		<b>単位時間数</b>	45	<b>単位数</b>	1
<b>講師名</b>	上遠野 純子	<b>実務経験</b>	医療機関 20年、介護福祉事業所 3年、作業療法士として勤務		
<b>到達目標</b>	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解する。運動と動作に関して、観察・測定・分析に初歩的手段を体験し、その結果をレポートとしてまとめる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	/	運動学実習にあたって レポート作成について	11	/	演習（血圧・心拍数の測定）
2	/	実験0 肩関節の可動域計測の データ整理	12	/	実験③のフィードバック 演習（血圧・心拍数の測定・データ収集）
3	/	口頭試問1-① 起き上がり動作と関節運動（記憶実習）	13	/	運動負荷試験演習① マスター階段昇降検査
4	/	口頭試問1-② 起き上がり動作と関節運動（記憶実習）	14	/	運動負荷試験演習② マスター階段昇降検査
5	/	実験① 筋力検査 肢位と最大筋力の考察	15	/	運動負荷試験演習③ 上肢運動負荷試験（重量負荷による）
6	/	実験② 筋力検査 標準テストと迅速テスト	16	/	運動負荷試験演習④ 上肢運動負荷試験（重量負荷による）
7	/	実験①と②の検証	17	/	運動負荷試験演習⑤ PCIテスト
8	/	実験0のフィードバック	18	/	運動負荷試験の検証
9	/	実験③機能的リーチテストと座位 での前方リーチテストの差異	19	/	運動負荷試験のフィードバック
10	/	実験③の検証	20	/	運動負荷試験のフィードバック

### 講義・実習方法

レポートの書き方、口頭試問について、実験方法等を開始前に説明しますが、後は自ら考えながらグループでの演習や2人1組になっての演習になります。

### 講義で使用する機器・教材

I P a dは必ず持参して下さい。

### 履修上の注意事項

※解剖学・生理学・骨格筋測定法、作業療法評価学、運動学の教科書を実験により使い分け  
※口頭試問は質問に口頭で答えてもらう課題です。出来るまで何度でも行います。全問正解を  
※実験ごとにレポートを提出してもらいます。提出期限は指示します。提出日に遅れそうな場合はあらかじめ相談してください。

※ケーシー型白衣を着用下さい。基本的には12階1207教室で演習を行いますが、適宜場所を変更しますので、連絡事項を確認ください。

### 成績評価方法

※口頭試問、個人レポート課題提出にて評定します。

### 教科書

エッセンシャルキネシオロジー 機能運動学の基礎と臨床 弓岡光徳 溝田勝彦 村田伸

### 参考書

中村隆一 他 編集 運動学実習 第3班 医歯薬出版

鎌倉矩子 編 PT・OT学生のための運動学実習 三輪書店

伊東 元 高橋 正明編集 標準理学療法学・作業療法学 運動学 医学書院

澤田雄二 編集 基礎作業学 改訂第3版 (作業療法学全書第2巻) 医歯薬出版

生田宗博 編集 作業療法評価学 改訂第3版 (作業療法学全書第3巻) 医歯薬出版

### 予習復習のアドバイス

解剖学・生理学・骨格筋測定法・作業療法評価学・基礎作業学・運動学などの基礎となる知識を復習しながら、わかるまで、納得するまで、解決する姿勢で望むこと。

記載日 R5年3月13日

## 講義要項(シラバス)

年度	2023年度	時期	前期	学年	2年
学科	作業療法学科	講義時間	3・4時限目		
科目名	運動学実習	講義曜日	月	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関(リハ専門病院・大学病院)20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
到達目標	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解する。運動と動作に関して、観察・測定・分析に初歩的手段を体験し、その結果をレポートとしてまとめる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
21	/	実験④ 反応時間測定	23		実験⑤ 動作のスキル
22	/	実験④ 反応時間測定			

### 講義・実習方法

レポートの書き方、口頭試問について、実験方法等を開始前に説明しますが、後は自ら考え行動して下さい。グループでの演習や2人1組になったの演習になります。

### 講義で使用する機器・教材

IPadは必ず持参して下さい。

### 履修上の注意事項

- ※解剖学・生理学・骨格筋測定法、作業療法評価学、運動学の教科書を実験により使い分けます。
- ※口頭試問は質問に口頭で答えてもらう課題です。出来るまで何度でも行います。全問正解を求めます。
- ※実験ごとにレポートを提出してもらいます。提出期限は指示します。提出日に遅れそうな場合はあらかじめ相談してください。
- ※ケーシー型白衣を着用下さい。基本的には12階1207教室で演習を行いますが、適宜場所を変更しますので、連絡事項を確認ください。

### 成績評価方法

※口頭試問、個人レポート課題提出にて評定します。

### 教科書

エッセンシャルキネシオロジー 機能運動学の基礎と臨床 弓岡 光徳 溝田 勝彦 村田 伸

### 参考書

中村隆一 他 編集 運動学実習 第3班 医歯薬出版  
 鎌倉矩子 編 PT・OT学生のための運動学実習 三輪書店  
 伊東 元 高橋 正明編集 標準理学療法学・作業療法学 運動学 医学書院  
 澤田雄二 編集 基礎作業学 改訂第3版 (作業療法学全書第2巻) 医歯薬出版  
 生田宗博 編集 作業療法評価学 改訂第3版 (作業療法学全書第3巻) 医歯薬出版

### 予習復習のアドバイス

解剖学・生理学・骨格筋測定法・作業療法評価学・基礎作業学・運動学などの基礎となる知識を復習しながら、わかるまで、納得するまで、解決する姿勢で望むこと。

記載日 R5 年3月13 日

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	内科学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	原田、木幡、堀田、川上、伊藤、大沼	実務経験	医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	近年の超高齢社会において、リハビリテーション医療における対象疾患も高齢者の抱える内科疾患を理解し、診療に当たらねばならない。そのため、各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標とする。				
	<b>到達目標</b>				
	各疾患の症候と病態生理を理解し、診断・治療・予後の経過を正しく理解できる。日々の診療の中で、身近に接する対象者の症状から専門職としての対応を判断し、実施出来る。検査データが示す疾患の特性を認識する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	内科臨床とリハビリテーションとの関連性	9	腎機能疾患
2	症候学	10	腎機能疾患
3	循環器疾患	11	内分泌疾患
4	循環器疾患	12	内分泌疾患
5	代謝障害	13	呼吸器疾患
6	代謝障害	14	呼吸器疾患
7	血液・造血器疾患	15	感染症
8	血液・造血器疾患	16	

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。  
オンライン授業を中心に実施する

**成績評価方法**

定期試験,出席率、授業態度から総合的に判断する。

**教科書・参考書**

標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 内科学 第4版

**予習復習のアドバイス**

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	作業療法科・理学療法科	講義時間	変則		
科目名	整形外科学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	羽鳥、鳥谷部、大井、他	実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	整形外科疾患の各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標と				
	<b>到達目標</b>				
	運動器の知識が理解できる。、運動器疾患におけるADL障害を理解できる。最新の手術法や治療法について理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	整形外科基礎知識	9	末梢神経における外傷疾患①
2	運動器評価および検査法	10	末梢神経における外傷疾患②
3	運動器評価および検査法	11	脊髄損傷①
4	整形外科的治療法	12	脊髄損傷②
5	整形外科的治療法	13	関節における外傷疾患
6	骨軟部腫瘍①	14	腱靭帯における外傷疾患・スポーツ外傷
7	骨軟部腫瘍②	15	先天性骨関節疾患
8	熱傷	16	

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。オンライン授業を中心に実施する

**成績評価方法**

定期試験,課題等で総合評定する

**教科書・参考書**

医学書院 標準整形外科学第14版

**予習復習のアドバイス**

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

## 講義要項(シラバス)

年度	2023年度	時期	通年		
学科	作業療法科・理学療法科	学年	2学年		
科目名	神経内科学	講義時間	変則		
		講義曜日	変則	講義回数	8
講師名	中村 起也	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b> リハビリテーション医療において主な対象者である中枢神経疾患をはじめとする神経疾患の症候とその治療を理解し、適切なリハビリテーション医療を提供できるようになる				
	<b>到達目標</b> 1、神経疾患の症候を理解する 2、神経学的徴候の診断の方法を理解する 3、神経疾患の生活障害を理解する 4、各疾患の臨床像を理解し、その中からOTとして取り組むべきことを模索出来る				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		神経学的診断と評価	11		神経疾患各論 脳血管障害
2		神経学的検査法	12		神経疾患各論 認知症
3		神経症候学 意識障害・脳死・植物状態	13		神経疾患各論 脳腫瘍
4		神経症候学 運動麻痺、錘体路徴候	14		神経疾患各論 外傷性脳損傷
5		神経症候学 錐体外路徴候・不随意運動	15		神経疾患各論 脊髄疾患
6		神経症候学 運動失調	16		神経疾患各論 変性疾患
7		神経症候学 感覚障害			
8		神経症候学 構音障害			
9		神経症候学 高次脳機能障害(失認・失行)			
10		神経症候学 高次脳機能障害(認知症)			

**講義方法**

教科書、パワーポイント教材、DVDを使用する

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

小テスト、出席状況、学期末試験等総合的に評価を行う

**教科書**

標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 第5版 医学書院

**参考書****予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	小児科学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	大沼 晃、奈良 隆寛、他	実務経験	医師/歯科医師/作業療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーション医療における小児疾患事例の対象者は、以前は先天性疾患や脳性麻痺などの神経疾患が主であり、関節拘縮や筋力低下などによる四肢運動器への関わりが中心であった。最近においては、小児腫瘍性疾患や極低出生体重の事例など心肺機能が未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということ意識して臨まねばならず、また母親やとりまく家族への支援も視野に臨むため、適切な対応が行えるよう小児疾患の特徴を理解する。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	リハビリテーション医療における小児疾患事例の対象者は、以前は先天性疾患や脳性麻痺などの神経疾患が主であり、関節拘縮や筋力低下などによる四肢運動器への関わりが中心であった。最近においては、小児腫瘍性疾患や極低出生体重の事例など心肺機能が未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということ意識して臨まねばならず、また母親やとりまく家族への支援も視野に臨むため、適切な対応が行えるよう小児疾患の特徴を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	小児疾患の診断と治療の概要①（大沼）	9	発達障害について①（奈良）
2	小児疾患の診断と治療の概要②（大沼）	10	発達障害について②（奈良）
3	正常と異常の診方（特に乳幼児期）（大沼）	11	発達障害領域の支援について①（松田）
4	先天異常と周産期異常、遺伝病について（大沼）	12	発達障害領域の支援について②（松田）
5	未熟児医療について①（奈良）	13	障害児医療の今後①・いのちの授業について（田中）
6	未熟児医療について②（奈良）	14	障害児医療の今後②・いのちの授業について（田中）
7	腫瘍性疾患・ターミナル・ケア①（奈良）	15	まとめ
8	腫瘍性疾患・ターミナル・ケア②（奈良）	16	

11項から15項はOTのみ

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。

**成績評価方法**

定期試験100%、欠席・授業態度は減点とする。

**教科書・参考書**

標準理学療法学・作業療法学 小児科学（第3版）医学書院

**予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	精神医学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤健太、島田真須美、酒井良隆	実務経験	医師/歯科医師/作業療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	精神科医療において関わる症例の疾患構造について理解する。また各疾患の治療法について概略を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	精神医学の学習を通じて、人の心身の健康状態のあり方を認識出来、また精神疾患の症候とその治療について正しく理解して、理学療法士としてリハビリテーションを行う際に系統立てて考えられるようになる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	依存症関連
2	統合失調症①	10	神経症性障害
3	統合失調症②	11	摂食障害
4	統合失調症③	12	パーソナリティ障害
5	気分（感情）障害①	13	精神障害の診断と評価（佐藤）
6	気分（感情）障害②	14	認知症の診断と治療①（島田）
7	気分（感情）障害③	15	認知症の診断と治療①（島田）
8	てんかん	16	

**講義方法**

座学形式が中心である。

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項**

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

**成績評価方法**

期末考査(80%)、出席率(20%)で評定する。

**教科書**

標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 精神医学

**参考書****予習復習のアドバイス**

記載日 令和5年 3月 27日

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	リハビリテーション医学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐直、原田、渡邊、他	実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	21世紀のリハビリテーション医療は障害者の2次的合併症の予防と健康増進である。本講では、総論として疾病治療とリハビリテーション医療の特性、診断と機能評価のとして廃用症候群、排尿障害、褥瘡、摂食・嚥下障害を扱う。各論では、リハビリテーション医療の主な関係、特殊な問題対象疾患について、国際生活機能分類ICFの生活機能とその障害の側面から学修する。				
	<b>到達目標</b>				
	医学的リハビリテーションの基本が理解できる。生活機能の測定、評価について説明できる。医学的リハビリテーションの対象疾患の障害(生活機能の負の面)と介入が理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	リハビリテーション医学とは	9	脊髄疾患のリハビリテーション
2	診断と機能評価総論総論	10	脊髄疾患のリハビリテーション
3	疾病治癒とリハビリテーション医療	11	切断と義肢
4	廃用症候群	12	切断と義肢
5	フィットネスと内部障害のリハビリテーション①	13	RAのリハビリテーション
6	フィットネスと内部障害のリハビリテーション②	14	RAのリハビリテーション
7	脳血管疾患のリハビリテーション①	15	骨関節疾患のリハビリテーション
8	脳血管疾患のリハビリテーション②	16	

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める

**成績評価方法**

定期試験で評定する。

**教科書・参考書**

最新リハビリテーション医学第3版（医歯薬出版）

**予習復習のアドバイス**

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期		学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間			
科目名	関連職種連携論Ⅰ	講義曜日		講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーション医療に関わる様々な職種の専門性を互いに理解した上で、対象者の目標に向かって、作業療法士の果たす役割を認識できる、				
	<b>到達目標</b>				
	リハビリテーション医療に関わる様々な職種の専門性を互いに理解し、対象者の目標に向かって連携することができる。その中で作業療法士の果たす役割を				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	多職種連携とは	5	他職種を理解する
2	リハビリテーション専門職が多職種連携を学ぶ意味	6	急性期医療における多職種連携
3	多職種連携が求められる背景	7	在宅医療における多職種連携
4	他職種を理解する	8	多職種連携コンピテンシー

<p><b>講義方法</b></p> <p>パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式</p> <p>多職種によるチームビルディング演習等も適宜行なう</p>
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>小テスト、レポート等で総合評定する</p>
<p><b>教科書・参考書</b>特に指定しないが、適宜参考書として</p> <p>「標準作業療法学：専門分野 作業療法概論」、「作業で語る事例報告」を使用する。</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	2学年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	コミュニケーション技術特講 PCT (practical communication training)	講義曜日	変則	講義回数	23回
		総時間数	45時間	単位数	1
講師名	淀川裕美 酒井良隆	実務経験	淀川裕美：リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務 酒井良隆：医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	クライアントと信頼関係を築きながら，クライアントに合わせてコミュニケーションの様式を変化させ，クライアントから必要な情報を得ることができる				
	<b>到達目標</b>				
	① 自己のコミュニケーションの特性と，その特性が他者に与える影響について認識している				
	② コミュニケーションを阻害する特性については，どのように修正すべきかを考察し，それを行うための行動をとることができる				
③ クライアントの表出を引き出し，双方向の会話ができる					
④ 目的を持って会話に臨める					
⑤ 適切な態度でクライアント・スタッフと接することができる					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	13	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）
2	知識接遇自己分析振り返り	14	ビデオ分析
3	面接とは	15	ビデオ分析
4	面接の流れ	16	目的を持った会話とは
5	面接計画の作成①	17	目的を持った会話とは
6	面接計画の作成②	18	目的をもって会話をする（評価としての面接）
7	面接計画の作成③	19	目的をもって会話をする（評価としての面接）

8	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）	20	ビデオ分析
9	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）	21	ビデオ分析
10	ビデオ分析	22	全体を通した課題分析
11	ビデオ分析	23	総括
12	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）	24	

### 講義方法

座学・演習準備・演習・振り返り

### 成績評価方法

課題評価6割 面接の実施と取り組み状況4割

### 参考書

### 予習復習のアドバイス

自己の振り返りをその都度必ず行い、行動計画に反映できるように努めましょう

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	作業療法特論Ⅱ	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	酒井良隆、上遠野純子、佐藤秀美	実務経験	【酒井】医療機関に作業療法士として12年勤務【上遠野】医療機関20年、介護福祉事業所3年勤務【佐藤】医療機関に9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	基礎3科目の得点力を向上させる				
	基礎三科目の国家試験過去問題に多く触れ、苦手分野を認識し克服する				
	<b>到達目標</b>				
・8月下旬の基礎三科目模試（学内）で最低35点以上、一年次の点数より5点upする					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	4/6 オリエンテーション 参考書の種類と特徴について	9	6/8 知識共有グループワーク
2	4/13 調べ学習	10	6/15 問題に挑戦
3	4/20 知識共有グループワーク	11	6/22 入れ替え戦
4	4/27 知識共有グループワーク	12	6/29 調べ学習
5	5/11 問題に挑戦	13	7/6 知識共有グループワーク
6	5/18 入れ替え戦	14	7/13 知識共有グループワーク
7	5/28 調べ学習	15	7/20 期末試験
8	6/1 知識共有グループワーク	16	

**講義方法**

グループワーク、個人学習

**成績評価方法**

受講態度・グループワークへの取り組み（20％）、入れ替え戦成績（30％）

期末試験成績（50％）

**参考書**

解剖学、生理学、運動学で使用した教科書 国家試験参考書、1年次にHRで使用した資料

**予習復習のアドバイス**

日々の積み重ねが大切です。すぐに結果がでなくとも焦らずに取り組み続けてください。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	作業療法管理学 I リスク管理・職業倫理	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関(病院・訪問)7年, 福祉機関(通所介護)7年, 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	医療安全のマネジメントを理解する. 作業療法の役割と職域, 職業倫理を理解できる.				
	到達目標				
	学生が診療情報の役割と記録の基本原則が理解できる. 学生がアクシデント, インシデント, 医療過誤, ヒューマンエラーを理解できる. 学生が情報と何かを理解できる. 学生が作業療法の役割と職域, 職業倫理を理解できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法で取り扱う情報マネジメント	5	作業療法の役割と職域①
2	医療安全マネジメント	6	作業療法の役割と職域②
3	作業療法業務のマネジメント①	7	作業療法士の職業倫理①
4	作業療法業務のマネジメント②	8	作業療法士の職業倫理②

### 講義方法

講義では, 教科書を使用する.また, 適宜, 資料としてプリントを配布する.

グループ学習

### 成績評価方法

試験 (100%) で成績を評価する.

授業態度も評定の対象とする. (減点方式)

また適宜課題作成を行い, 評定のための資料とする.

### 参考書

作業療法管理学入門 第2版

### 予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為, 計画的に予習を行う.
- ・講義での疑問, 質問に関しては放置することなく迅速に対応する.

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前 期	学 年	2年生
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	作業療法評価学概論	講義曜日	木	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年，福祉機関（通所介護）7年，作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	作業療法について，面接・観察・検査測定の意味を理解する。 対象者を理解するために行うべき評価が考察できる。				
	<b>到達目標</b>				
	学生が作業療法の現状を知り，用いられる作業療法評価の具体的内容を説明できる。 学生が評価のために行う面接・観察・検査，測定を知ることができる。 学生が検査などで得られた情報から今後の治療にどう役立てていくかを整理できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	人について知る，OTの役割，病期別	5	心身機能・身体構造評価
2	OT評価の流れ，評価項目，関連法規	6	活動・参加の評価
3	基本的情報収集，記録・報告の意義と特徴	7	個人因子の評価
4	面接・観察・検査測定	8	統合と解釈

<p><b>講義方法</b></p> <p>講義では，教科書を使用する。また，適宜，資料としてプリントを配布する。</p> <p>グループ学習</p>
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>試験（100％）で成績を評価する。</p> <p>また，出席時数が授業時数の2/3に達しないものは，評定できない。</p> <p>授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）</p>
<p><b>教科書（参考書）</b></p> <p>標準作業療法学 作業療法評価学第3版 医学書院</p> <p>標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に合わせて講義を進める為，計画的に予習を行う。</li> <li>・講義での疑問，質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</li> </ul>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅰ (中枢)	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野 大輔,佐藤 秀美	実務経験	矢野：医療機関3年4か月,介護施設に10年8か月勤務.佐藤：医療機関に9年勤務.		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	中枢疾患に応じた作業療法評価を説明できる.				
	中枢疾患に応じた作業療法目標を設定できる.				
	<b>到達目標</b>				
①疾患に対する一般的な評価が列挙できる.②疾患に応じた作業療法評価時の注意事項を説明できる.③疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる.④基礎知識(解剖,運動,生理)を関連付けた評価目的を理解できる.					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	中枢疾患を理解する	9	上肢機能検査(Br.stage ,MFT)
2	疾患特性とADL	10	上肢機能検査(Br.stage ,MFT)
3	ADLの評価	11	検査測定(協調性検査)
4	面接・観察	12	検査測定(姿勢観察)
5	検査測定(関節可動域/形態測定)	13	検査測定(動作分析)
6	検査測定(感覚検査)	14	検査測定(動作分析)
7	検査測定(筋緊張・反射検査)	15	統合と解釈/テストバッテリー/予防評価
8	検査測定(姿勢反射/バランス)	16	

### 講義方法

講義では教科書を使用する.適宜,資料としてプリントを配布する.グループ学習を行う.

### 成績評価方法

試験(100%)で成績を評価する.授業態度も評定の対象とする.(減点方式)適宜レポート作成を行い,評定のための資料とする.

### 教科書

標準作業療法学作業療法評価学第3版 参考書：標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版,作業療法技術ガイド

### 予習復習のアドバイス

①教科書に合わせて講義を進める為,計画的に予習を行うこと.②講義での疑問,質問に関しては放置することなく解決のために行動すること.③ipadを活用し,実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること.④評価実習で活用できるよう,学んだ知識,技術の整理を心掛けること.

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅱ (整形)	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野 大輔,佐藤 秀美,藤井貴	実務経験	矢野大輔：医療機関3年4か月,訪問看護,老健施設10年8か月勤務。佐藤秀美：医療機関9年1か月勤務。藤井貴：医療機関7年,通所介護7年勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	疾患に応じた作業療法評価学を説明できる。				
	疾患に応じた作業療法目標を設定できる。				
	<b>到達目標</b>				
疾患に対する一般的な評価が列挙できる.疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる.疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる.基礎知識（解剖,運動,生理）を関連付けた評価目的を理解できる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	骨折を理解する	9	脊髄損傷の評価①
2	骨折のADL	10	脊髄損傷の評価②
3	骨折の評価	11	関節リウマチを理解する
4	末梢神経疾患/慢性疼痛を理解する	12	関節リウマチのADL
5	末梢神経疾患/慢性疼痛のADL	13	関節リウマチの評価
6	末梢神経疾患/慢性疼痛の評価	14	画像評価①
7	脊髄損傷を理解する	15	画像評価②
8	脊髄損傷のADL	16	

<b>講義方法</b>
教科書,スライドを使用しながら座学と実技を織り交ぜて実施する.また,適宜,資料としてプリントを配布するのでファイリングして持参すること.
<b>成績評価方法</b>
試験（100%）で成績を評価する.授業態度も評定の対象とする。（減点方式）また課題の取り組み内容も評定する。
<b>教科書</b>
標準作業療法学 作業療法評価学第3版 参考書：標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版,作業療法技術ガイド,作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学 1 身体障害
<b>予習復習のアドバイス</b>
①教科書に合わせて講義を進める為,計画的に予習を行うこと.②講義での疑問,質問に関しては放置することなく解決のために行動すること.③ipadを活用し,実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること.④評価実習で活用できるよう,学んだ知識,技術の整理を心掛けること.

## 講義要項（シラバス）

年度	2023年度	時期	前期	学年	2年
学科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅲ (内部)	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	2
講師名	矢野 大輔,藤井貴,淀川裕美	実務経験	矢野大輔：医療機関3年4か月,訪問看護,老健施設10年8か月 藤井貴：医療機関7年,通所介護7年勤務. 淀川裕美：リハ専門病院3年,介護施設訪問看護12年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	疾患に応じた作業療法評価を説明できる.				
	疾患に応じた作業療法目標を設定できる.				
	<b>到達目標</b>				
疾患に対する一般的な評価が列挙できる.疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる.疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる.基礎知識（解剖,運動,生理）を関連付けた評価目的を理解できる.					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	心疾患を理解する	5	代謝疾患を理解する
2	心疾患の評価	6	代謝疾患の評価
3	呼吸器疾患を理解する	7	悪性腫瘍を理解する
4	呼吸器疾患の評価	8	悪性腫瘍の評価

<b>講義方法</b> 教科書,スライドを使用しながら座学と実技を織り交ぜて実施する.また,適宜,資料としてプリントを配布する
<b>成績評価方法</b> 試験（100%）で成績を評価する.授業態度も評定の対象とする（減点方式）.また課題の取り組み内容も評定する.
<b>教科書</b> 標準作業療法学 作業療法評価学第3版,標準作業療法学 第3版
<b>参考書</b> 作業療法技術ガイド,標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版,作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学1 身体障害
<b>予習復習のアドバイス</b> ①配布資料、教科書を使用し計画的に予習復習を行うこと.②講義での疑問,質問に関しては放置することなく解決のために行動すること.③ipadを活用し,実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること.④評価実習で活用できるよう,学んだ知識,技術の整理を心掛けること.

## 講義要項（シラバス）

年度	2023年度	時期	前期	学年	2学年
学科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	高次脳機能障害作業療法評価学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2学年
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	高次脳機能障害の評価指標の臨床活用について学ぶ				
	<b>到達目標</b>				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対する評価の考え方と実践方法を身につけ、臨床実習や卒後業務に生かすことができる				

回数	月日	講義内容	回数	講義内容
1	4/4①	高次脳機能障害の基礎知識 ～高次脳機能とは？脳の障害部位と症状の関連～	9	5/9② 高次脳機能障害 注意障害②～検査と評価～
2	4/4②	失語症 失語症①～失語症とは～	10	5/16② 高次脳機能障害 半側空間無視①～半側空間無視とは～
3	4/11①	認知障害 失語症②～検査と評価～	11	5/23① 高次脳機能障害 半側空間無視②～検査と評価～
4	4/18①	認知障害 失行①～失行とは～	12	5/30① 高次脳機能障害 記憶障害①～記憶障害とは～
5	4/18②	認知障害 失行②～検査と評価～	13	5/30② 高次脳機能障害 記憶障害②～検査と評価～
6	4/25②	認知障害 失認①～失認とは～	14	6/6② 前頭葉障害等 能障害・前頭葉症状～遂行機能障害・前頭葉症
7	5/2①	認知障害 失認②～検査と評価～	15	6/13① 脳画像の診方 脳画像の種類等の理解、全体のまとめ
8	5/9①	高次脳機能障害 注意障害①～注意障害とは～	16	

**講義方法**

座学講義形式

**成績評価方法**

試験点数を100%で評定します

**教科書 参考書**

作業療法治療学5「高次脳機能障害」協同医書出版社

項目ごとに授業資料があります、onedriveにアップするためその都度ダウンロードをお願い致します

**予習復習のアドバイス**

講義当日中に当該項目が理解されているかを振り返りましょう！

予習を行う場合は、教科書を何度も読むことをお勧めします

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	精神機能作業療法評価学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関に12年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	精神障害領域における作業療法について、その実践過程を理解する。 様々な評価手段とその手順を習得し、目標設定を行うことが出来る。				
	<b>到達目標</b>				
	精神機能作業療法における、様々な評価手段について理解する。 作業療法における、基本的な視点と方法について理解する。 精神障害作業療法における、歴史的背景を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法における評価とは	9	作業・作業活動を介した生活支援
2	精神機能作業療法における評価①	10	観察について
3	精神機能作業療法における評価②	11	作業面接について
4	ライフサイクルと生活課題①	12	集団とその治療的応用①
5	ライフサイクルと生活課題②	13	集団とその治療的応用②
6	精神機能作業療法の歴史的背景（世界編）	14	自己分析①
7	精神機能作業療法の歴史的背景（日本編）	15	自己分析②
8	作業・作業活動を介した回復支援	16	

**講義方法**

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

**成績評価方法**

試験（100％）、授業態度は減点方式、レポート作成を適宜行い評価資料とする。

**参考書**

標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院

**予習復習のアドバイス**

提示資料の内容だけでなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023 年度	時 期	前期	学 年	2 年
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	発達過程作業療法評価学	講義曜日	水	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各時期の発達過程における作業療法評価法を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	(1) 乳幼児期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。 (2) 学童・青年期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。 (3) 感覚統合の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	発達過程作業療法 発達障害とは 理念・目的・発達年齢・発達障害	9	JASPER、摂食嚥下評価
2	全般的評価 JDDST-R	10	心理社会的評価
3	全般的評価 遠城寺式乳幼児分析的発達検査	11	心理社会的評価
4	姿勢反射検査 ミラニー発達検査	12	粗大運動の評価（GMFM）
5	視覚機能機能障害の評価 EDPA・VPDT・TVPS	13	微細運動の評価 上肢MAT、EDPA
6	ADL評価	14	上肢機能障害の評価 EDPAとMAT（上肢）
7	職業レディネス	15	試験
8	職業レディネス	16	

**講義方法**

座学と演習を行う。

**成績評価方法**

期末試験70%、課題20%、授業態度10%で評定します。

**教科書・参考書**

標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学

作業療法学全書第6巻 作業治療学3 発達障害

**予習復習のアドバイス**

人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り、発達過程を覚える。key wordは、自分なりに調べて、理解をすること。自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からない時には、即解決すること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前 期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	高齢期作業療法評価学	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関7年，福祉機関7年，作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	高齢期作業療法の意義を理解し，高齢者の特徴を捉えた上で，CLを中心とした個別的な生活支援サービスに必要な評価の具体的内容を理解し，実施すること				
	<b>到達目標</b>				
	学生が高齢者の特徴を理解できる。 学生が高齢者の抱えている背景を理解できる。 学生が作業療法評価項目，実践過程を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 高齢者へ作業療法は何故行われる？	9	評価の流れ・評価法① どのような人かを知るには？
2	高齢者を理解するために① 高齢者の身体的変化	10	評価の流れ・評価法② どうなりたいかを知るには？
3	高齢者を理解するために② 時代背景，イベント・高齢社会	11	評価の流れ・評価法③ どうやっているのかを知るには？
4	高齢者を理解するために③ ライフステージ，QOL，4つの喪失	12	評価の流れ・評価法④ 何故こうなっているのかを知るには？
5	高齢者を理解するために④ 役割，ライフスタイル，作業バランス	13	事例検討
6	高齢者を理解するために⑤ 認知症についての理解	14	高齢期の作業療法（外部講師）
7	高齢者を理解するために⑥ 認知症についての理解	15	高齢期の作業療法（外部講師）
8	高齢者の作業療法評価の視点 評価の流れ・手順	16	

**講義方法**

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。講義は演習と連動グループ学習

**成績評価方法**

試験（100％）で成績を評価する。

また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。

授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

**教科書（参考書）**

高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂

標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院

**予習復習のアドバイス**

教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。

講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	身体機能作業療法評価学演習	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井貴 矢野大輔	実務経験	藤井：医療機関、介護施設に14年 矢野：医療機関、介護施設に14年		
講義目標	一般目標				
	作業療法評価における臨床技能・態度について学び、模倣できる				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるようになるまで、主体的に指導を仰ぐことができる</li> <li>・基本動作が一連の流れで模倣実施できる</li> <li>・各種検査測定における必要な知識が備わっている</li> <li>・各種検査測定が正確に模倣実施できる</li> <li>・作業療法評価を一連の流れで実施できる</li> </ul>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション (矢野) STEF & MFT 見学・模倣・実施	9	動作分析と介助方法 実施 (藤井) 寝返り、起き上がり
2	STEF & MFT (矢野) 見学・模倣・実施	10	動作分析と介助方法 見学 (藤井) トランスファーと車椅子の介助方法
3	感覚検査 (矢野) 見学・模倣・実施	11	動作分析と介助方法 模倣 (藤井) トランスファーと車椅子の介助方法
4	バランス評価 (矢野) 見学・模倣・実施	12	動作分析と介助方法 実施 (藤井) トランスファーと車椅子の介助方法
5	協調性検査 (矢野) 見学・模倣・実施	13	動作分析と介助方法 見学 (矢野) 歩行
6	片麻痺機能検査 BRS (矢野) 見学・模倣・実施	14	動作分析と介助方法 模倣 (矢野) 歩行
7	動作分析と介助方法 見学 (藤井) 寝返り、起き上がり	15	動作分析と介助方法 実施 (矢野) 歩行
8	動作分析と介助方法 模倣 (藤井) 寝返り、起き上がり	16	

**講義方法**

見学（教員が手本）⇒模倣（学生と教員）⇒実施（学生主体）の順序で講義を進める

iPadを使用し実技場면을撮影、チェッカーが実技状況をチェックする

**成績評価方法**

実技テスト80% 筆記試験20%

**教科書・参考書**

PT・OTのための 臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 才藤栄一監修 金原出版

**予習復習のアドバイス**

自主練習を継続的に行う グループでの予習、復習を行う。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間			
科目名	高次脳機能作業療法評価学演習	講義曜日		講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の各症状を想定し、対象者の理解を深めるための評価を行える				
	到達目標				
	高次脳機能における各症状別の評価バッテリーの摘要が想定できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	失語に関する評価	5	記憶に関する評価
2	失行に関する評価	6	前頭葉機能に関する評価
3	失認に関する評価	7	検査項目の振り返り
4	注意機能に関する評価	8	全体のまとめ

### 講義方法

座学と演習を混ぜて実施します。実習着の着用は原則不要ですが、必要時は事前に指示をします。

### 成績評価方法

試験と課題（7：3）にて評定します。演習の取り組み状況は課題点に加味されます。

### 教科書 参考書

作業療法治療学5 「高次脳機能障害」 協同医書出版社☒

### 予習復習のアドバイス

時間内に取り組みが完了しない場合は、担当教員に申し出た上で近日中に演習を完了すること

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	精神機能作業療法評価学演習	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関に12年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	様々な評価手段とその手順を習得することが出来る。 精神障害領域における作業療法について、その実践過程を各種評価の演習によって体験できる				
	<b>到達目標</b>				
	精神機能作業療法における、様々な評価手段について理解した上で実践できる 作業療法における、基本的な視点と方法について理解した上で実践できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	観察①	5	各種評価方法の実践①
2	観察②	6	各種評価方法の実践②
3	作業面接①	7	評価の解釈①
4	作業面接②	8	評価の解釈②

<b>講義方法</b>
講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。グループ学習
<b>成績評価方法</b>
レポート作成（60％）、演習への取り組む姿勢（20％）、出席（20％）、授業態度減点方式
<b>参考書</b>
標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院
<b>予習復習のアドバイス</b>
グループワークでの意見交換を意識する。

## 講義要項（シラバス）

<b>年 度</b>	2023 年度	<b>時 期</b>	前期	<b>学 年</b>	2 年
<b>学 科</b>	作業療法科	<b>講義時間</b>	2時限目		
<b>科目名</b>	発達過程作業療法評価学演習	<b>講義曜日</b>	水	<b>講義回数</b>	15
		<b>総時間数</b>	15	<b>単位数</b>	1
<b>講師名</b>	上遠野 純子	<b>実務経験</b>	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	各時期の発達過程における作業療法評価法を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	(1)乳幼児期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解する。				
	(2)学童・青年期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	姿勢反射検査	5	視覚機能機能障害の評価演習
2	粗大運動の評価（GMFM）演習	6	ADL評価演習
3	微細運動の評価（上肢MAT、EDPA）演習	7	職業レディネス
4	微細運動の評価（上肢MAT、EDPA）演習	8	心理社会的評価演習

### 講義方法

座学と演習を行う。

### 成績評価方法

演習課題遂行状況ならびに課題、授業態度で評定します。

### 参考書

標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学作業療法学全書第6巻作業治療学3発達障害

### 予習復習のアドバイス

人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り、発達過程を覚える。key wordは、自分なりに調べて、理解をすること。自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からない時には、即解決すること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通 年	学 年	2年生
学 科	作業療法科	講義時間	2時限目		
科目名	高齢期作業療法評価学演習	講義曜日	木	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年，福祉機関（通所介護）7年，作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	高齢期での面接・観察・検査測定の意味を理解する。 対象者を理解するために行うべき評価が考察できる。				
	<b>到達目標</b>				
	学生が高齢期で行われる作業療法評価の具体的内容を説明できる。 学生が評価のために行う面接・観察・検査，測定を知ることができる。 学生が検査などで得られた情報から今後の治療にどう役立てていくかを整理できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高齢期で行われる評価について	5	高齢期評価（観察）
2	高齢期評価の実際	6	高齢期評価（MMSE・HDS-R） 模擬症例（三年生）に実施
3	高齢期評価（面接） 模擬症例（三年生）に面接	7	高齢期評価（COPM）
4	高齢期評価（観察）	8	評価結果の解釈

### 講義方法

講義では，教科書を使用する。また，適宜，資料としてプリントを配布する。

グループ学習

### 成績評価方法

試験（50%），課題（50%）で成績を評価する。

また，出席時数が授業時数の2/3に達しないものは，評定できない。

授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

### 教科書（参考書）

高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂

標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院

### 予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為，計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問，質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2年生
学 科	作業療法科	講義時間	2時限目		
科目名	MTDLP 生活行為向上マネジメント	講義曜日	木	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年，福祉機関（通所介護）7年，作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	生活行為向上マネジメントを理解する。				
	生活行為向上マネジメントシートの活用（事例）ができる。				
	<b>到達目標</b>				
学生が生活行為向上マネジメントの背景を知っている。					
学生が生活行為向上マネジメントのプロセスを理解できる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業と生活行為	5	生活行為向上マネジメントの使い方②
2	生活行為向上マネジメント開発の背景	6	生活行為向上マネジメントによる連携
3	生活行為向上マネジメントと作業療法	7	生活行為向上マネジメント事例①
4	生活行為向上マネジメントの使い方①	8	生活行為向上マネジメント事例②

### 講義方法

講義では，教科書を使用する。また，適宜，資料としてプリントを配布する。

グループ学習

### 成績評価方法

試験（80%），課題（20%）で成績を評価する。

また，出席時数が授業時数の2/3に達しないものは，評定できない。

授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

### 教科書（参考書）

事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版

（作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント 改訂第3版）

### 予習復習のアドバイス

教科書に合わせて講義を進める為，計画的に予習を行う。

講義での疑問，質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度（令和5年度）	時 期	後期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	身体機能作業療法治療学Ⅰ （中枢）	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野 大輔, 上遠野純子	実務経験	矢野：医療機関3年4か月, 介護施設に10年8か月, 作業療法士として勤務。 上遠野：医療機関20年, 介護福祉事業所3年作業療法士として勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	疾患に応じた機能回復メカニズム, 機能的予後について説明できる。 疾患に応じた医学的治療と作業療法の関連について考察できる。				
	<b>到達目標</b>				
	①学生が疾患に対する機能回復のメカニズムを理解できる。②学生が疾患における予後予測を立て, 生活行為に関連付けられる。③学生が作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている。④学生が基礎知識(解剖, 運動, 生理)を関連付けた医学的治療を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脳血管疾患の作業療法①	9	パーキンソン病の作業療法②
2	脳血管疾患の作業療法②	10	パーキンソン病の作業療法③
3	脳血管疾患の作業療法③	11	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法 ①
4	脳血管疾患の作業療法④	12	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法 ②
5	脳血管疾患の作業療法⑤	13	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法 ③
6	脳血管疾患の作業療法⑥	14	脊髄小脳変性症の作業療法①
7	頭部外傷の作業療法	15	脊髄小脳変性症の作業療法②
8	パーキンソン病の作業療法①	16	

**講義方法**

講義では教科書を使用する.適宜, 資料としてプリントを配布する.グループ学習を行う.

**成績評価方法**

試験 (100%) で成績を評価する.授業態度も評定の対象とする.(減点方式)適宜レポート作成を行い,評定のための資料とする.

**教科書**

標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法第4版,標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第3版 参考書:作業療法技術ガイド第4版

**予習復習のアドバイス**

①教科書に合わせて講義を進める為,計画的に予習を行う.②講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する.③ipadを活用し,学習効果を高める.④評価実習で活用できるよう,知識と技術の蓄積を行う.

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度（令和5年度）	時 期	後期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	身体機能作業療法治療学Ⅱ （整形）	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔, 上遠野純子	実務経験	矢野：医療機関3年4か月、訪問看護、老健施設10年8か月勤務。 上遠野純子：医療機関 20年, 介護福祉事業所3年勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	疾患に応じた機能回復メカニズム, 機能的予後について説明できる。 疾患に応じた医学的治療と作業療法の関連について考察できる。				
	<b>到達目標</b>				
	①学生が疾患に対する機能回復のメカニズムを理解できる。②学生が疾患における予後予測を立て, 生活行為に関連付けられる。③学生が作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている。④学生が基礎知識(解剖, 運動, 生理)を関連付けた医学的治療を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脊髄損傷の作業療法①	9	関節リウマチの作業療法①
2	脊髄損傷の作業療法②	10	関節リウマチの作業療法②
3	脊髄損傷の作業療法③	11	末梢神経疾患/慢性疼痛の作業療法①
4	脊髄損傷の作業療法④	12	末梢神経疾患/慢性疼痛の作業療法②
5	脊髄損傷の作業療法⑤	13	手の外科 作業療法①
6	骨折の作業療法①	14	手の外科 作業療法②
7	骨折の作業療法②	15	熱傷の作業療法
8	骨折の作業療法③	16	

**講義方法**

講義では教科書を使用する.適宜,資料としてプリントを配布する.グループ学習を行う.

**成績評価方法**

試験(100%)で成績を評価する.授業態度も評定の対象とする(減点方式).課題への取り組み内容も評定のための資料とする.

**教科書**

標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法第4版,標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第3版 参考書:作業療法技術ガイド第4版

**予習復習のアドバイス**

①教科書に合わせて講義を進める為,計画的に予習を行う.②講義での疑問、質問に関しては放置せず解決のために腎族に行動する.③ipadを活用し,学習効果を高める.④評価実習で活用できるよう,知識と技術の蓄積を行う.

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	後期	学 年	2年
学 科	作業療法学科	講義時間	変則		
科目名	身体機能作業療法治療学Ⅲ (内部)	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野純子, 藤井貴	実務経験	上遠野：医療機関20年,介護福祉事業所3年勤務. 藤井貴：医療機関7年,通所介護7年勤務.		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	疾患に応じた機能回復メカニズム,機能的予後について説明できる.				
	疾患に応じた医学的治療と作業療法の関連について考察できる.				
	<b>到達目標</b>				
①学生が疾患に対する機能回復のメカニズムを理解できる.②学生が疾患における予後予測を立て,生活行為に関連付けられる.③学生が作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている.④学生が基礎知識(解剖,運動,生理)を関連付けた医学的治療を理解できる.					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	心疾患の作業療法①	9	代謝疾患の作業療法③
2	心疾患の作業療法②	10	悪性腫瘍の作業療法①
3	心疾患の作業療法③	11	悪性腫瘍の作業療法②
4	呼吸器疾患の作業療法①	12	生活不活発の作業療法①
5	呼吸器疾患の作業療法②	13	生活不活発の作業療法②
6	呼吸器疾患の作業療法③	14	喀痰吸引①
7	代謝疾患の作業療法①	15	喀痰吸引②
8	代謝疾患の作業療法②	16	

**講義方法**

講義では,教科書を使用する.適宜,資料としてプリントを配布する.グループ学習を行う.

**成績評価方法**

試験 (100%) で成績を評価する.授業態度も評定の対象とする.(減点方式)適宜レポート作成を行い,評定のための資料とする.

**教科書**

標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法第4版,標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第3版 参考書:作業療法技術ガイド第4版

**予習復習のアドバイス**

①教科書に合わせて講義を進める為,計画的に予習を行う.②講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する.③ipadを活用し,学習効果を高める.④評価実習で活用できるよう,知識と技術の蓄積を行う.

## 講義要項（シラバス）

年度	2023年度	時期	前期	学年	2学年
学科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	高次脳機能障害作業療法治療学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2学年
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の作業療法における実践と事例からアプローチの仕方を学ぶ				
	到達目標				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対しての実践方法を身につけ、臨床実習や卒後業務に生かすことができる				

回数	月日	講義内容	回数	講義内容
1		高次脳機能障害と作業療法 概要	9	機能障害別アプローチの実際 注意障害②～治療の実際～
2		高次脳機能障害の分類と類型 失語症①～失語症とは～	10	高次脳機能障害の分類と類型 半側空間無視①～半側空間無視とは～
3		機能障害別アプローチの実際 失語症②～治療の実際～	11	機能障害別アプローチの実際 半側空間無視②～治療の実際～
4		高次脳機能障害の分類と類型 失行①～失行とは～	12	高次脳機能障害の分類と類型 記憶障害①～記憶障害とは～
5		機能障害別アプローチの実際 失行②～治療の実際～	13	機能障害別アプローチの実際 記憶障害②～治療の実際～
6		高次脳機能障害の分類と類型 失認①～失認とは～	14	高次脳機能障害の分類と類型 能障害・前頭葉症状～遂行機能障害・前頭葉症
7		機能障害別アプローチの実際 失認②～治療の実際～	15	機能障害別アプローチの実際 遂行機能障害・前頭葉症状～治療の実際～
8		高次脳機能障害の分類と類型 注意障害①～注意障害とは～	16	

**講義方法**

座学講義形式

**成績評価方法**

試験点数を100%で評定します

**教科書 参考書**

作業療法治療学5「高次脳機能障害」協同医書出版社

項目ごとに授業資料があります、onedriveにアップするためその都度ダウンロードをお願い致します

**予習復習のアドバイス**

講義当日中に当該項目が理解されているかを振り返りましょう！

予習を行う場合は、教科書を何度も読むことをお勧めします

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	精神機能作業療法治療学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関に12年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	作業療法の基本的実践論から、疾患・障害別の作業療法の実際について理解する				
	<b>到達目標</b>				
	対象となる疾患の病理、障害像を理解し、作業療法の目的、留意点について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	各種依存症への作業療法①	9	神経症性障害への作業療法①
2	各種依存症への作業療法②	10	神経症性障害への作業療法②
3	統合失調症への作業療法①	11	摂食障害への作業療法
4	統合失調症への作業療法②	12	パーソナリティ障害への作業療法①
5	統合失調症への作業療法③	13	パーソナリティ障害への作業療法②
6	気分（感情）障害への作業療法①	14	てんかんへの作業療法
7	気分（感情）障害への作業療法②	15	司法精神医療における作業療法
8	気分（感情）障害への作業療法③	16	

**講義方法**

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

**成績評価方法**

試験（100％）、授業態度は減点方式、レポート作成を適宜行い評価資料とする。

**参考書**

標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院

**予習復習のアドバイス**

提示資料の内容だけでなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学年	2
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	発達過程作業療法治療学	講義曜日	変則	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野 純子、畑中一枝	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動発達系（心身障害）と精神障害系（知的障害、発達障害）の各疾患・障害における作業療法の評価を行い治療の過程を説明出来る				
	<b>到達目標</b>				
精神心理系 【知的障害（Down症を含む）、小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（広汎性発達障害、注意欠陥多動、学習障害を含む）】 運動発達系【脳性麻痺、二分脊椎、骨形成不全症、重症心身障害、筋ジストロフィー症（重症筋無力症含む）】 上記疾患の作業療法過程を説明出来る					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脳性麻痺	11	内部障害（循環器）
2	脳性麻痺	12	自閉スペクトラム障害（Autism Spectrum
3	脳性麻痺	13	注意欠如・多動性障害（Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder）
4	脳性麻痺	14	学習障害
5	二分脊椎症	15	知的障害
6	骨形成不全症		
7	重症心身障害児者		
8	小児がん（脳腫瘍含む）		
9	筋ジストロフィー症		
10	重症筋無力症		

**講義・実習方法**

座学、課題演習

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター、ビデオ、Ipadを適宜使用する

**履修上の注意事項****成績評価方法**

各疾患ごとの演習課題ならびに学期末試験にて総合評定を行う。

**教科書**

標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版

**参考書**

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学第2版 理学療法学テキスト小児理学  
メディカルビュー

**予習復習のアドバイス**

資料を事前配布しますので、その内容は必ず知識として定着してください。

key wordは、自分なりに調べてまとめる。自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いて  
みること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後 期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	高齢期作業療法治療学	講義曜日	火	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	疾患に応じた作業療法アプローチ、機能的予後について説明できる。				
	疾患に応じた医学的治療と作業療法のプランを作成できる。				
	<b>到達目標</b>				
学生が高齢期に多い疾患における予後予測を立て、生活行為に関連付けられる。					
学生が高齢期における、その人を知る視点を考察できる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高齢期の一般的特徴 その人らしい作業の捉えかた	9	作業療法介入アプローチの視点・治療理論 治療理論（MOHO, CMOP, ICF）
2	高齢期に多い疾患	10	高齢者に対する治療技法（治療構造） 治療技法（治療構造）
3	高齢期に注意すること	11	高齢者のその人らしさを支える作業療法
4	大切な作業を実現するための方法	12	高齢期の作業療法（ケース検討）
5	その人の役割・生きがいを知る	13	高齢期の作業療法（ケース検討）
6	その人の生活習慣を知る	14	高齢期の作業療法（外部講師）
7	その人を取り巻く環境を知る	15	高齢期の作業療法（外部講師）
8	その人の生活のバランスを知る	16	

**講義方法**

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

**成績評価方法**

試験（100％）で成績を評価する。

また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。

授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めません。）

**教科書（参考書）**

高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂

標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院

**予習復習のアドバイス**

教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。

講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	仕事関連活動実習	講義曜日	変則	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	酒井良隆、田邊裕靖、吉崎伸一	実務経験	酒井：医療機関（神経科・精神科） に作業療法士として12年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	仕事に関する活動が持つ特性と人や環境に与える影響を考慮することができる 対象に応じた作業活動を通じた課題や段階設定を行うことができる				
	<b>到達目標</b>				
	世の中のさまざまな仕事について、理解を深め、対象者の仕事の理解に役立つ 対象者にとっての仕事関連活動の意味を理解し、提供することができる 仕事関連活動に取り組むことによる、心身機能への影響を分析できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	仕事関連活動とは 仕事関連活動が人に与える影響について	13	ライフステージにおける仕事関連活動 青年期：人生年表①
2	仕事関連活動が人に与える影響について グループワーク:疾患特性調べ	14	ライフステージにおける仕事関連活動 青年期：人生年表②
3	仕事関連活動が人に与える影響について グループワーク：疾患特性調べ	15	ライフステージにおける仕事関連活動 青年期：アントレプレナーシップ①
4	仕事関連活動が人に与える影響について グループワーク：疾患特性共有	16	ライフステージにおける仕事関連活動 青年期：アントレプレナーシップ②
5	仕事関連活動が人に与える影響について グループワーク：質問事項の検討	17	ライフステージにおける仕事関連活動 青年期：アントレプレナーシップ③
6	仕事関連活動が人に与える影響について 障害者就労の現場について：講演	18	ライフステージにおける仕事関連活動 成人期・老年期：講義
7	ライフステージにおける仕事関連活動 幼児期・児童期：講義	19	ライフステージにおける仕事関連活動 成人期・老年期：グループワーク①
8	ライフステージにおける仕事関連活動 キャリア形成の基礎（吉崎）	20	ライフステージにおける仕事関連活動 成人期・老年期：グループワーク②
9	ライフステージにおける仕事関連活動 中学生の職場体験①	21	ライフステージにおける仕事関連活動 プレゼンテーション①
10	ライフステージにおける仕事関連活動 中学生の職場体験②	22	ライフステージにおける仕事関連活動 プレゼンテーション②

11	ライフステージにおける仕事関連活動 中学生の職場体験③	23	仕事関連活動のまとめ
12	ライフステージにおける仕事関連活動 青年期：講義	24	

### 講義方法

講義、グループ学習、プレゼンテーション

### 成績評価方法

プレゼンテーション（60％）、グループワーク（20％）、出席（20％）

### 参考書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学（第2版）

### 予習復習のアドバイス

・自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	余暇関連活動実習	講義曜日	変則	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	酒井 良隆、佐藤 秀美	実務経験	【酒井】医療機関に作業療法士として12年勤務【佐藤】医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	余暇活動が持つ特性と人や環境に与える影響を考慮することができる 対象に応じた作業活動を通じた課題や段階設定を行うことができる				
	<b>到達目標</b>				
	①グループワークを実施する中で、集団の持つ特性を経験することができる②対象者にとっての余暇関連活動の意味を理解し、提供することができる③余暇活動に取り組むことによる、心身機能への影響を分析できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	余暇関連活動とは	13	事例を通じた余暇関連活動の導入   講義
2	余暇関連活動が人に与える影響について 講義	14	事例を通じた余暇関連活動の導入   グループワーク ①
3	余暇関連活動が人に与える影響について グループワーク ①	15	事例を通じた余暇関連活動の導入   グループワーク ②
4	余暇関連活動が人に与える影響について グループワーク ②	16	事例を通じた余暇関連活動の導入   プレゼンテーション ①
5	余暇関連活動が人に与える影響について プレゼンテーション ①	17	事例を通じた余暇関連活動の導入   プレゼンテーション ②
6	余暇関連活動が人に与える影響について プレゼンテーション ②	18	事例を通じた余暇関連活動の導入   プレゼンテーション ③
7	余暇関連活動が人に与える影響について プレゼンテーション ③	19	事例を通じた余暇関連活動の導入    グループワーク ①
8	ライフステージにおける余暇活動 幼児期・児童期	20	事例を通じた余暇関連活動の導入    グループワーク ②
9	ライフステージにおける余暇活動 青年期	21	事例を通じた余暇関連活動の導入    プレゼンテーション ①
10	ライフステージにおける余暇活動 成人期	22	事例を通じた余暇関連活動の導入    プレゼンテーション ②

11	ライフステージにおける余暇活動 老年期 ①	23	事例を通じた余暇関連活動の導入 II プレゼンテーション ③
12	ライフステージにおける余暇活動 老年期 ②	24	

### 講義方法

講義では教科書を使用する。適宜、資料としてプリントを配布する。

### 成績評価方法

出席時数が授業時数の2/3に達しない者は評価できない。授業態度を評定の対象とする。（減点方式）  
プレゼンテーション（60%）、グループワーク（20%）、出席（20%）

### 教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 第2版 医学書院

### 予習復習のアドバイス

事前に教科書、資料データを読んで予習をすること。自分で分からないことがあったら放置せず、わかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。その日のうちに解決すること。放置する時間が長ければ、そのぶん以上にわからないことが増えます。学習した内容について、「なぜ」「どうして」の探求心をもって臨むこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2 年
学 科	作業療法科	講義時間	1・2 時限目		
科目名	代償学Ⅰ	講義曜日	水	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子, 本地 光弘	実務経験	上遠野：医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 対象とする障害像に合わせて使用する装具の、臨床での治療的適合方法や動作練習指導の方法を学習する。実習を通して、装具の臨床場面での適切な選択や適合、指導の方法を学習する。				
	<b>到達目標</b> 装具や自助具については、臨床場面で頻繁に活用されるものを中心に実際に作製し、製作技術を身につける。装具のチェックアウト技法を身に付ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	義肢とは、装具とは	5	スプリント実習(短対立スプリント) ランチョウ型
2	スプリント実習(掌側型カックアップスプリントの作製①) 型紙フィッティング、カッティング	6	スプリント実習(短対立スプリント) レナサーム使用に
3	スプリント実習(掌側型カックアップスプリントの作製②) モールディング、加工	7	スプリント実習(8の字スプリント)
4	スプリント実習(掌側型カックアップスプリントの作製③) チェックアウトと修正	8	自助具の開発・作成

<p><b>成績評価方法</b></p> <p>学期末試験（50％）や出席率（20％）と併せて、実習では製作後のレポート提出（20％）と出来栄（10％）によって評定する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>リハビリテーション義肢装具学 メジカルビュー社</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>義肢装具のチェックポイント監修日本整形外科学会、日本リハビリテーション学会 医学書院</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p> <p>主に製作実習になるので、使用する道具の準備や後片付けはきちんと行う。 怪我のないように細心の注意を払うこと。</p>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023 年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	臨床実習Ⅰ-1(R6.1.11～2/7)	講義曜日	変則	講義回数	
		総時間数	160	単位数	4
講師名		実務経験			
講義目標	到達目標				
	作業療法評価を模倣実施出来る				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	実習前評価24時間（1/11～1/13）		
2	臨地における実習（1/16～2/5）		
3	実習後評価16時間（2/6、2/7）		
4			

<b>講義方法</b>
<b>成績評価方法</b> 実習における最終評価は、実習前の臨床的能力試験（OSCE）の結果、臨地の臨床実習指導者に実習指導報告書、実習後セミナー及び課題の達成度を加味して総合的に評価を行う。
<b>予習復習のアドバイス</b>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023 年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	臨床実習 I -2(R6.2.13~3/12)	講義曜日	変則	講義回数	
		総時間数	160	単位数	4
講師名		実務経験			
講義目標	到達目標				
	作業療法評価を実習指導者の指導を受けながらも自分で考え実施出来る				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	実習前評価16時間（2/13、2/14）		
2	臨地における実習（2/15～3/7）		
3	実習後評価24時間（3/8,3/9,3/12）		
4			

<b>講義方法</b>
<b>成績評価方法</b> 実習における最終評価は、実習前の臨床的能力試験（OSCE）の結果、臨地の臨床実習指導者に実習指導報告書、実習後セミナー及び課題の達成度を加味して総合的に評価を行う。
<b>予習復習のアドバイス</b>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科・作業療法科	講義時間	変則		
科目名	薬理学	講義曜日	月	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野梨恵	実務経験	医療機関（病院・調剤薬局）にて18年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。あわせて、薬物の副作用やその有害事象についても学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物の基本事項について理解する。</li> <li>・対象疾患に対する薬物療法について理解する。</li> <li>・薬物の副作用と有害事象について理解する。</li> </ul>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	なぜ薬理学を学ぶのか 薬が疾患治療に使えるのはなぜか	9	神経疾患の薬物療法 (神経疾患治療薬・薬と運動機能障害)
2	薬の基礎知識 (薬の歴史・受容体・薬の分類)	10	精神疾患の薬物療法 (精神疾患治療薬・薬物による精神障害)
3	薬の概念と分類 (生体内物質と薬の作用・医療用医薬品)	11	循環器系疾患の薬物療法 (高血圧治療薬・狭心症治療薬・不整脈薬)
4	薬の作用に影響する因子 (薬物の標的・作用・副作用・有害反応)	12	疼痛の制御と薬物療法 (侵害受容性疼痛・神経障害性疼痛・鎮痛)
5	生体内での薬の働き (薬物血中濃度・ADME)	13	注意すべき頻用される薬物 (代謝性疾患治療薬・催眠薬)
6	薬の作用に影響する因子 (薬の効きやすさ・加齢の影響・相互作用)	14	臨床でよく使われる薬の解説 過去問解説
7	薬の使い方 (剤形・投与計画・リスクマネジメント・薬物依存)	15	試験・解説
8	感染・炎症の制御と薬物療法 (感染症治療薬・抗炎症薬)	16	

**講義方法**

座学の授業となります。教科書と配布プリントを使用して進めますので、配布資料はファイリングして講義に持参してください。

**成績評価方法**

出席（10％）試験（90％）で評定します。

内山靖・藤井浩美・立石雅子／編集 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学

**参考書**

丸山敬／著 FLASH薬理学 宮越浩一／編 リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理

**予習復習のアドバイス**

生理学・解剖学などの基礎科目と、内科学をはじめとする疾患に関する専門知識が基本になるので、国家試験勉強を兼ね復習しておくことを勧めます。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	3年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	画像診断学	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	伊藤 正敏	実務経験	医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーションでは、身体運動器とそれを制御する脳の構造と機能の理解が重要です。MRIやCTの進歩により筋肉や腱、さらには、脊髄、脳の詳細な画像化が可能となり、診療において目にする機会も増えると予想される。これら画像診断の基礎と代表疾患の理解を目標とする				
	<b>到達目標</b>				
	最新画像撮影法の原理と特徴を理解し、診療で遭遇する可能性が高い代表疾患の病態を知ること、科学的なリハビリテーションを実施できるようになることを期待する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	画像診断の原理と撮影法	5	四肢疾患画像診断
2	脊椎と神経画像診断	6	その他臓器の画像診断
3	脳血管疾患画像診断	7	悪性腫瘍画像診断
4	脳変性疾患画像診断	8	機能的画像診断

### 講義方法

パワーポイントを中心に講義を進めるが、状況に応じてオンライン授業を加える。

### 成績評価方法

出席率、授業中質問への回答、授業終了時の簡単なペーパーテストで評価する。

### 教科書

OT・PT基礎から学ぶ画像の読み方(医歯薬出版株式会社)

### 参考書

脳卒中の画像の診方（医学書院）

### 予習復習のアドバイス

わからないときは、授業終了後の質問で理解を深めること。復習すること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	公衆衛生学	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	小暮 真奈	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。心肺蘇生・応急処置について学ぶ。災害時におけるリハビリテーション職種の役割を理解する				
	<b>到達目標</b>				
	①救急医療体制について説明できる ②患者の急変時での基礎的な観察・処置を理解する。③心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	健康教育学（地域保健学）	5	高齢者の保健学 2
2	母子保健学	6	精神保健学
3	学校保健学・産業保健学	7	保健医療福祉制度と法規
4	高齢者の保健学 1	8	試験と解説

<b>講義方法</b>
パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式
<b>成績評価方法</b>
試験成績100%とする。一方、授業態度は厳粛に対応する
<b>教科書・参考書</b>
シンプル衛生・公衆衛生学2023
<b>予習復習のアドバイス</b>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	予防医学	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	中谷 久美	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。心肺蘇生・応急処置について学ぶ。災害時におけるリハビリテーション職種の役割を理解する				
	<b>到達目標</b>				
	①救急医療体制について説明できる ②患者の急変時での基礎的な観察・処置を理解する。③心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	衛生学・公衆衛生学序論（生命倫理を含む）	5	疾病と予防管理（生活環境、ライフスタイル）
2	保健統計（医療統計学を含む）	6	主な疾病（感染症、循環器疾患）
3	疫学（根拠に基づいた医療）	7	主な疾病（がん、メタボリック症候群、自殺、自然災害）
4	年齢調整死亡率、感度、特異度、ROC曲線	8	試験と解説

<b>講義方法</b>
パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式
<b>成績評価方法</b>
試験成績100%とする。一方、授業態度は厳粛に対応する
<b>教科書・参考書</b>
シンプル衛生・公衆衛生学2023
<b>予習復習のアドバイス</b>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期		学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間			
科目名	関連職種連携論Ⅱ	講義曜日		講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーション医療に関わる多くの職種の中で、作業療法士としての自身のキャリアを生かして、どのように働き、求められる人材となるかを学ぶ。セルフマネジメントの仕方を学習し、自身のキャリア形成を行えるようにする。				
	<b>到達目標</b>				
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法士としての役割を全うする（Role Contribution）</li> <li>2. 関係性に働きかける（Facilitation Relationship）</li> <li>3. 作業療法士としての自職種を省みる（Reflection）</li> <li>4. 関連する他職種を理解する（Understanding for Others）</li> </ol>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション セルフマネジメント～ライフプランニング①	5	他学科・多職種PBL
2	セルフマネジメント～ライフプランニング②	6	他学科・多職種PBL
3	セルフマネジメント～キャリアアップについて	7	他学科・多職種PBL
4	セルフマネジメント～キャリアアップについて	8	他学科・多職種PBL

<b>講義方法</b> 座学、演習（グループワーク）を行います。 2年次の「関連職種連携論Ⅰ」の資料を適宜使用します。また、資料を配布します。
<b>成績評価方法</b>
<b>教科書・参考書</b> 特に使用しない。参考図書は講義の際に、紹介します。
<b>予習復習のアドバイス</b>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学年	3
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	Practical Communication	講義曜日	変則	講義回数	8
	Training II	単位時間数	15	単位数	1
講師名	酒井良隆、田邊 裕靖	実務経験	酒井：医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床における対象者の目標を達成するために、対象者自身や家族、他職種とのより良い関係を保つ必要性を知り、その方法を修得する。積極的に対象者や家族、他職種と関わることで、信頼関係を気付くことの意味を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
対象者やその家族、他職種とのコミュニケーション技術を習得する。自身の強みを理解し、能動的な行動を習慣化出来るようにする。自身の行動計画を立てることが出来る。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える	5	行動計画を立てる
2	キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える	6	振り返り
3	キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える	7	振り返り
4	アントレプレナーシップを理解する	8	振り返り

### 講義方法

座学、演習を組み合わせで行う。

### 成績評価方法

授業態度、課題への取り組み状況、その成果発表などを通して総合的に評価する

### 教科書・参考書

特に使用しないが、適宜資料等を配布する。参考書として、PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第2版を使用する。

### 予習復習のアドバイス

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	作業療法研究法	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	石川 陽子	実務経験	作業療法士として24年間高齢者施設や学校教員として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	研究活動は専門職としての作業療法士にとって大切な業務の一部である理由を理解した上で、研究活動を遂行し、結果を臨床に利用して、さらに報告・発表するために必要な基本的知識と技能を獲得する				
	<b>到達目標</b>				
	研究活動は専門職としての作業療法士にとって大切な業務の一部である理由を理解した上で、研究活動を遂行し、結果を臨床に利用して、さらに報告・発表するために必要な基本的知識と技能を獲得する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法における研究 研究は誰が何のためにするものなのか	9	実験研究の基礎知識 変数
2	文献の種類と文献検索	10	統計解析の基礎知識
3	学会発表の基礎知識	11	統計解析の基礎知識
4	研究の手順 研究疑問 研究倫理	12	SSDの基礎知識
5	研究の種類。概観 目的による類型、手法による類型	13	質的研究
6	調査研究の基礎知識 種類、尺度、尺度構成	14	作業療法の理論
7	調査研究の基礎知識 種類、尺度、尺度構成	15	研究の実際
8	調査研究の基礎知識 種類、尺度、尺度構成	16	

**講義方法**

主に座学での講義となり、教科書、PowerPoint、iPadを使用する  
講義内容によってはグループを組んで演習を行うこともある

**成績評価方法**

課題、出席・態度等で総合評定する

**教科書・参考書**

標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 第2版 医学書院

**予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通 年	学 年	3年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	作業療法特論Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年，福祉機関（通所介護）7年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	第59回作業療法国家試験に合格できる知識を身に着ける。				
	到達目標				
	学生が国家試験に向けた学習を早期に身に着けられる。 学生が8月までに学内模試で120点をとる。 学生が12月までに学内模試で140点をとる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	国家試験オリエンテーション	9	医歯薬模試①（8月）
2	昨年度の実施状況説明	10	振り返りとグループワーク
3	学内模試①	11	学内模試④
4	振り返りとグループワーク	12	振り返りとグループワーク
5	学内模試②	13	三輪模試（秋）
6	振り返りとグループワーク	14	振り返りとグループワーク
7	学内模試③	15	学内模試⑤（11月末 最終試験）
8	振り返りとグループワーク	16	

**講義方法**

計画的に国家試験合格に向けた模試を実施する.実施後, 振り返りを行い知識の点検・更新を行う.

**成績評価方法**

医歯薬①で120点, 学内模試⑤(最終試験)で140点をとる.2つの試験(目標値)で成績を評価する.

また, 出席時数が授業時数の2/3に達しないものは, 評定できない.

授業態度も評定の対象とする.講義内容に合わせて課題提出を求めます.(評定に含めます.)

**教科書(参考書)**

1~3年で使用した全ての教科書

(個人の参考書)

**予習復習のアドバイス**

目標値が取れる学習を計画的に行う.(教員による面談有)

知識強化に向けて, 疑問, 質問に関しては放置することなく迅速に対応する.

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通 年	学 年	3年生
学 科	作業療法科	講義時間	4時限目		
科目名	作業療法管理学Ⅱ 職業管理	講義曜日	火	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関7年，福祉機関7年，作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	作業療法におけるサービスマネジメントの特徴を理解する。				
	作業療法の役割と職域，諸制度を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
学生が作業療法の業務マネジメントを理解できる。（人・物・経済）					
学生が作業療法部門の管理業務が理解できる。（人材育成も含む）					
学生が作業療法士のキャリア開発について考えられる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	組織の成り立ちとマネジメント	5	作業療法業務のマネジメント③ 人・物・経済のマネジメント
2	医療サービスマネジメント	6	作業療法業務のマネジメント 実践からの学び
3	作業療法業務のマネジメント① 人・物・経済のマネジメント	7	作業療法を取り巻く諸制度
4	作業療法業務のマネジメント② 人・物・経済のマネジメント	8	作業療法士のキャリア開発

### 講義方法

講義では，教科書を使用する。また，適宜，資料としてプリントを配布する。

グループ学習

### 成績評価方法

試験（80％），課題（20％）で成績を評価する。

また，出席時数が授業時数の2/3に達しないものは，評定できない。

授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

### 教科書（参考書）

作業療法管理学入門第2版 医歯薬出版

標準作業療法学 作業療法評価学 第3版

### 予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為，計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問，質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	代償学Ⅱ（義肢）	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 対象とする障害像に合わせて使用する義肢の治療的適合方法や動作練習指導の方法を学習する。実習を通して、義肢の臨床場面での適切な選択や適合、治療的介入を行える技術を身につける。				
	<b>到達目標</b> 義肢についてはその特性について模擬義肢の装着などを通して理解を深める。義肢装具のチェックアウト技法を身に付ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	義肢とは 義肢の歴史的背景	5	前腕義手のチェックアウト：実技演習 上腕義手のチェックアウト：実技演習
2	義肢の構造理解	6	義足の構成要素と機能について
3	義手の構成要素と機能について	7	義足のチェックアウト：実技演習
4	義手装着前訓練及び装着訓練について	8	体幹装具について、まとめ

### 成績評価方法

小テスト、出席率授業態度、演習時のレポート等で総合的に評定を行う

### 教科書・参考書

義肢・装具学 （協同医書出版社）

### 予習復習のアドバイス

事前に教科書を読んで、予習をすること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通 年	学 年	3年
学 科	作業療法科	講義時間	1時限目		
科目名	代償学Ⅲ	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	対象者の生活を豊かにし、自立生活に用いる福祉用具について、その種類と機能、特性、選定、適合を学び理解する。医療・福祉制度を加味した住環境整備、実践例を把握する。				
	<b>到達目標</b>				
	学生が福祉用具の理論的な位置づけや評価の基本的方針を理解する。 学生が疾患別の福祉用具活用、具体的な選定・適合方法を学習する。 学生が障がいの特徴に合わせた住宅改修の考え方と作業療法士の役割を理解す				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	建築の基礎知識 ① 住宅改造	9	福祉用具適応論
2	建築の基礎知識 ② 住宅改造	10	福祉用具の運用
3	自宅を考える（全体）	11	福祉用具活用の実際（外部講師）
4	自宅を考える（アプローチ、玄関）	12	福祉用具活用の実際（外部講師）
5	自宅を考える（トイレ）	13	福祉用具活用の実際（外部講師）
6	自宅を考える（浴室）	14	疾患別の福祉用具利用
7	住宅改造を考える	15	福祉用具展示会場見学 （仙台市シルバーセンター）
8	宮城県リハセンター見学	16	

**講義方法**

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

**成績評価方法**

試験（100％）で成績を評価する。

また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。

授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出（評定に含めます。）

**教科書（参考書）**

作業療法学全書改定第3版 作業療法技術学10 福祉用具の使い方・住環境整備 協同医書出版

**予習復習のアドバイス**

教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。

講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	3学年
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	地域作業療法学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	淀川 裕美、佐藤 秀美	実務経験	淀川：リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	地域共生社会（地域包括ケアシステム）にあたり求められる作業療法士の役割を想定する基盤を学び得る				
	<b>到達目標</b>				
	対象者に必要とされる地域サービスを助言のもと理解し、作業療法の実践を想定できる				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		地域リハビリテーションとは	9		予防・ヘルスプロモーションについて
2		地域作業療法とは	10		予防・ヘルスプロモーションについて
3		地域作業療法における制度	11		実践事例
4		社会生活支援・連携について	12		実践事例
5		地域作業療法の枠組み	13		実践事例
6		個別支援について・集団支援・地域づくり	14		実践事例
7		地域包括ケアシステムについて	15		まとめ
8		地域包括ケアシステムについて	16		

**講義方法**

座学講義形式

**成績評価方法**

- ・履修内容に関する確認テスト（100点満点）を実施し、評定の8割分とする
- ・出席状況及び履修態度を合わせて2割分とする

**教科書 参考書**

標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版

**予習復習のアドバイス**

介護保険制度や地域包括ケアシステム等、他の科目でも関連する内容が含まれます  
教科書全般を一読頂くことをおすすめします

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	就労支援関連法規論	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野 純子 酒井 良隆	実務経験	<p>【上遠野】医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務</p> <p>【酒井】医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務</p>		
講義目標	一般目標				
	人にとっての就業の意義を探り、障害者の就労について考える				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の就労援助体制の現状を認識する</li> <li>・ 職業リハビリテーションにおける作業療法の意義と役割について理解を深め</li> </ul>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	身体障害における就労支援
2	就労支援の基礎概念	10	高次脳機能障害における就労支援
3	法制度と現状	11	精神障害における就労支援
4	就労支援における介入	12	障害者職業センターにおける就労支援の実際
5	職業評価	13	ハローワークにおける就労支援の実際
6	職業評価	14	就労移行支援事業所における就労支援の実際
7	障害者の就労援助体制の現状	15	就労継続支援事業所A・B型 就労支援の実際
8	知的障害における就労支援	16	

**講義方法**

講義内容により、外部演習、講義のスタイルをとる

**成績評価方法**

学期末試験（100％）にて成績を評価する

**教科書・参考書**

就労支援の作業療法 -基礎から臨床実践まで- 中村俊彦ほか編著 医歯薬出版株式会社

**予習復習のアドバイス**

- ・事前に教科書を読んで、予習をすること。
- ・わからないことがあったら、そのまま放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞く。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	臨床実習 II -1(R5.5.10～7/19)	講義曜日	変則	講義回数	
		総時間数	400	単位数	10
講師名		実務経験			
講義目標	到達目標				
	作業療法評価の精度を高め、作業療法の治療・介入を模倣実施出来る				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	実習前評価40時間（5/10～5/16）	11	
2	臨地における実習（5/17～7/11）	12	
3	実習後評価40時間（7/12～7/19）	13	
4		14	

<b>講義方法</b>
<b>成績評価方法</b> 実習における最終評価は、実習前の臨床的能力試験（OSCE）の結果、臨地の臨床実習指導者による実習指導報告書、実習後セミナー及び課題の達成度を加味して総合的に評価を行う。
<b>予習復習のアドバイス</b>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前後期	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	変則		
科目名	臨床実習 II -2(R5.8 .28 ~11 /8 )	講義曜日	変則	講義回数	
		総時間数	400	単位数	10
講師名		実務経験			
講義目標	到達目標				
	作業療法の治療介入を実習指導者の助言をうけながら自分で実施出来る				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	実習前評価16時間（8/28、8/29）	11	
2	臨地における実習（8/30～11/2）	12	
3	実習後評価24時間（11/6～11/8）	13	
4		14	

<b>講義方法</b>
<b>成績評価方法</b> 実習における最終評価は、実習前の臨床的能力試験（OSCE）の結果、臨地の臨床実習指導者による実習指導報告書、実習後セミナー及び課題の達成度を加味して総合的に評価を行う。
<b>予習復習のアドバイス</b>